

National Institute of Technology(KOSEN),Fukushima College

独立行政法人国立高等専門学校機構



福島工業高等専門学校要覧



2026

機械システム工学科 / 電気電子システム工学科 / 化学・バイオ工学科 / 都市システム工学科 / ビジネスコミュニケーション学科
専攻科：産業技術システム工学専攻 / ビジネスコミュニケーション学専攻

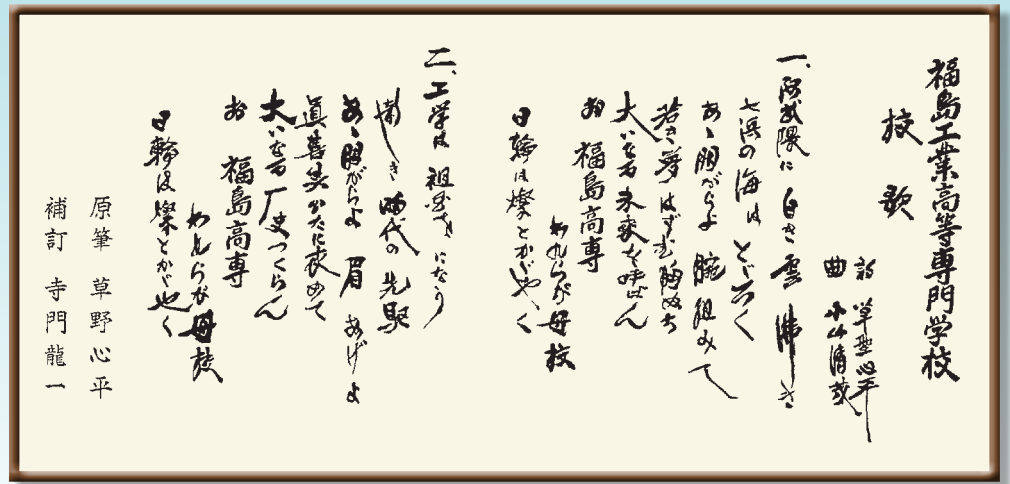
目次

教育理念 学習・教育目標 ポリシー等	2
沿革	4
歴代校長	5
名誉教授	5
組織	6
教職員数	6
役職員	6
収入決算額	6
科学研究費助成事業及び外部資金の受入状況	6
組織図	7
委員会等	7
学科紹介	8
機械システム工学科	8
電気電子システム工学科	9
化学・バイオ工学科	10
都市システム工学科	11
ビジネスコミュニケーション学科	12
一般教科	13
教育課程 準学士(本科)	14
専攻科紹介	21
教育課程(専攻科)	23
廃炉・原子力規制等に関する人材育成の取組	28
高等専門学校等スタートアップ教育環境整備事業	29
国際化・SDGs推進センター	30
サステナブルイノベーションセンター(SIセンター)	31
カーボンニュートラル社会連携共同講座	31
情報処理教育センター	32
地域環境テクノセンター	32
モノづくり教育研究支援センター	32
学生保健センター	32
学生学習支援センター	33
図書館	33
福利厚生施設「磐陽会館」	33
学寮「磐陽寮」	34
学生数	35
学生定員及び現員	35
出身地別学生数	35
入学志願者状況	36
卒業生の進路	37
就職者の産業別分野	37
大学等編入学状況	38
専攻科修了生の進路	39
建物配置図	40





校長
岡本任弘



教育 理念

1. 広く豊かな教養と人間力の育成
2. 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
3. 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

学習・教育目標

- (A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
- (B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
- (C) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
- (D) イノベーションに即応するために、情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
- (E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
- (F) 情報技術を活用して、グローバルなコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

福島高専ディプロマポリシー（抜粋）

○養成する人材像

●工学系学科及び専攻

- ①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
- ②イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探求できるエンジニア
- ③モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
- ④グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

●ビジネス系学科及び専攻

- ①自己実現ができるビジネス・スペシャリスト
- ②グローバルなコミュニケーション能力を有するビジネス・スペシャリスト
- ③論理的思考に優れたビジネス・スペシャリスト
- ④長期的な視野をもち、持続可能な社会の実現に貢献するビジネス・スペシャリスト

学科別・専攻/コース別の養成する人材像は、各学科・専攻の紹介ページ（P8～12、P22）をご覧ください。

全文は、福島高専ホームページから→



卒業時(修了時)に身に付けるべき学力や資質・能力

準学士課程 (本科)

1. 豊かな教養と国際的な感覚を有し、継続的な自己学習ができる人間性
2. 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力
3. モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力
4. 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力
5. 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献できる能力

専攻科課程

1. 地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力
2. 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
3. モノづくりやデザイン能力を有し、工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力
4. 国際社会で必要な情報処理能力及びコミュニケーション能力
5. 福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力

福島高専アドミッションポリシー（抜粋）

アドミッションポリシー（入学者受入方針）は、本校の学習・教育目標を達成できる能力を持った人を入学させるための方針で、次のように定められています。

準学士課程（本科）

求める学生像

●全学科

1. 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人（知識・技能）
2. 自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人（思考力・判断力・表現力）
3. あらゆる物事に興味を持ち、深く探究する人（思考力・判断力・表現力）
4. 創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人（主体性・協働）
5. しっかりしたモラルを持ち、まわりの人たちを尊重する人（主体性・協働）

学科別の求める学生像は、福島高専ホームページをご覧ください。

専攻科課程

求める学生像

●全専攻

1. 専門の知識と基礎技術を有し、より高度な実践的かつ創造的技術を修得する意欲のある人（知識・技能）
2. 工学と経営の融合した分野に強い興味を持っている人（思考力・判断力・表現力）
3. 職業人としての倫理観を身につけ、専門分野で地域及び社会の発展に貢献したい人（主体性・協働）

専攻/コース別の求める学生像は、福島高専ホームページをご覧ください。

全文は、福島高専ホームページから→



沿革

- 昭和37年4月 国立学校設置法の一部を改正する法律の施行により、平工業高等専門学校が設置され、機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科をもって発足した。
初代校長に、福島県教育長佐藤光が任命された。
開校式並びに第1回入学式を挙行し、121名に対し入学を許可した。
仮校舎（元県立平盲ろう学校・平市才榎小路20）で授業を開始した。
- 昭和38年3月 本校舎並びに寄宿舎の一部（第1期工事）が竣工した。
4月 現在地に移転した。
10月 初めて学生祭を開催した。
- 昭和39年3月 電気工学科実験棟・機械工学科実験棟並びに寄宿舎の一部（第2期工事）が竣工した。
5月 学校所在地の呼称を「磐陽台」と名付けた。同時に、寮は「磐陽寮」と命名した。
6月 校旗及び校歌を制定した。
9月 第1回東北地区工業高等専門学校体育大会を本校で開催した。
- 昭和40年3月 第一体育館新築工事が竣工した。
工業化学科実験棟・機械工学科実験棟並びに寄宿舎の一部（第3期工事）が竣工した。
4月 事務部に庶務・会計の2課が設置された。
9月 水泳プール新設工事が竣工した。
10月 校舎落成記念式典と第1回高専祭を開催した。
陸上競技場（第一運動場）新設工事が竣工した。
- 昭和41年4月 土木工学科が設置された。
9月 武道場新築工事が竣工した。
10月 本校所在地の市名が市町村合併により「いわき市」と改称された。
- 昭和42年3月 土木工学科実験棟及び寄宿舎増築工事が竣工した。
3月 第1回卒業証書授与式を挙行し、109名に卒業証書を授与した。
6月 本校の名称を平工業高等専門学校から福島工業高等専門学校に改称した。
7月 第2種電気主任技術者認定学校の指定を受けた。
- 昭和44年4月 事務部に学生課が設置された。
9月 佐藤忠良氏制作の「青年の像」が建てられた。
- 昭和45年5月 テニスコート・野球場（第二運動場）新設工事が竣工した。
- 昭和47年5月 創立10周年記念式典を第一体育館において挙行了した。
- 昭和48年3月 電子計算機室新築工事が竣工した。
- 昭和49年3月 「建学之碑」が建てられた。
- 昭和52年11月 創立15周年記念のつどいを第一体育館において挙行了した。
- 昭和53年1月 第二体育館新築工事が竣工した。
4月 初代校長佐藤光が退任し、第二代校長に文部省管理局教育施設部長柏木健三郎が任命された。
- 昭和54年3月 環境科学教育研究センター新築工事が竣工した。
8月 初めて公開講座（環境科学）を開催した。
- 昭和55年3月 一般教室増築工事が竣工した。
- 昭和56年3月 福利厚生施設「磐陽会館」新築工事が竣工した。
- 昭和57年6月 創立20周年記念式典を第一体育館において挙行了した。
- 昭和59年4月 校長柏木健三郎が退任し、第三代校長に茨城大学教授武田二郎が任命された。
- 昭和62年4月 電子計算機室を情報処理センターに改名した。
- 平成元年4月 校長武田二郎が退任し、第四代校長に茨城大学教授寺門龍一が任命された。
- 平成4年10月 創立30周年記念式典をいわき市平市民会館で挙行了した。
- 平成6年4月 コミュニケーション情報学科が設置された。
平成7年4月 土木工学科が建設環境工学科に改組された。
平成8年3月 コミュニケーション情報学科棟が竣工した。
4月 工業化学科が物質工学科に改組された。
- 平成9年4月 校長寺門龍一が退任し、第五代校長に茨城大学教授岩松幸雄が任命された。
- 平成13年4月 地域交流センターが設置された。
- 平成14年3月 低学年棟新築工事が竣工した。
11月 創立40周年記念式典を管理棟大会議室において挙行了した。
- 平成15年4月 校長岩松幸雄が退任し、第六代校長に茨城大学教授安久正紘が任命された。
- 平成16年4月 独立行政法人国立高等専門学校機構が発足した。
専攻科が設置され、第1回専攻科入学式を挙行し、28名に対し、入学を許可した。
（機械・電気システム工学専攻、物質・環境システム工学専攻、ビジネスコミュニケーション学専攻の3専攻）
- 平成18年1月 専攻科棟新築工事が竣工した。
3月 第1回専攻科修了証書授与式を挙行し、26名に修了証書を授与した。
4月 地域交流センターと環境科学教育センターを統合し、地域環境テクノセンターを設置した。
- 平成19年4月 校長安久正紘が退任し、第七代校長に茨城大学教授奈良宏一が任命された。
事務部の3課を2課（総務課・学生課）に改組した。
11月 「母子想像」が経済産業省の「近代化産業遺産」に認定された。
- 平成20年3月 大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価の認定を受けた。
- 平成21年4月 技術部をモノづくり教育研究支援センターに改組した。
- 平成22年2月 大学評価・学位授与機構による認定専攻科における教育の実施状況等の審査において「適」を受けた。
- 平成24年10月 創立50周年記念式典及び記念講演会をいわき芸術文化交流館アリオスにおいて、記念祝賀会をいわきワシントンホテル椿山荘において挙行了した。

平成26年4月 校長奈良宏一が退任し、第八代校長に京都大学施設部長中村隆行が任命された。

平成27年4月 専攻科3専攻（機械・電気システム工学専攻、物質・環境システム工学専攻、ビジネスコミュニケーション学専攻）が2専攻（産業技術システム工学専攻、ビジネスコミュニケーション学専攻）5コースに改組された。学生保健センターが設置された。

平成28年4月 コミュニケーション情報学科がビジネスコミュニケーション学科に改組された。

平成29年4月 機械工学科が機械システム工学科、電気工学科が電気電子システム工学科、物質工学科が化学・バイオ工学科、建設環境工学科が都市システム工学科にそれぞれ改組された。グローバル化推進センターが設置された。

平成30年4月 校長中村隆行が退任し、第九代校長に文部科学省大臣官房文教施設企画部長 山下治が任命された。

令和2年2月 図書館改修工事が竣工した。（昭和45年11月竣工）

令和3年12月 国際寮（曙寮）が竣工した。

令和4年3月 大学改革支援・学位授与機構が実施した高等専門学校機関別認証評価において大学評価基準に適合しているとの認定を受けた。

9月 若葉寮が竣工した。

11月 創立60周年記念式典及び記念講演会をいわき芸術文化交流館アリオスにおいて、記念祝賀会をいわきワシントンホテル椿山荘において挙行了した。

令和5年4月 校長山下治が退任し、第十代校長に文部科学省研究振興局主任学術調査官 田口重憲が任命された。

令和6年3月 寄宿舎共用棟（食堂）が竣工した。

令和7年4月 校長田口重憲が退任し、第十一代校長に（独）日本学術振興会経営企画部長 岡本任弘が任命された。

令和8年3月 第21回専攻科修了証書授与式及び第60回卒業証書授与式を挙行了した。

4月 第65回入学式及び令和8年度編入学式並びに第23回専攻科入学式を挙行了した。

歴代校長

佐藤 光	昭和37年4月1日～ 昭和53年3月31日
柏木 健三郎	昭和53年4月1日～ 昭和59年3月31日
武田 二郎	昭和59年4月1日～ 平成元年3月31日
寺門 龍一	平成元年4月1日～ 平成9年3月31日
岩松 幸雄	平成9年4月1日～ 平成15年3月31日
安久 正紘	平成15年4月1日～ 平成19年3月31日
奈良 宏一	平成19年4月1日～ 平成26年3月31日
中村 隆行	平成26年4月1日～ 平成30年3月30日
山下 治	平成30年4月1日～ 令和5年3月31日
田口 重憲	令和5年4月1日～ 令和7年3月30日
岡本 任弘	令和7年4月1日～

名誉教授

金田 誠	平成4年4月1日	秋山 秀博	平成25年4月1日
中山 淳一	平成7年4月1日	奈良 宏一	平成26年4月1日
坂本 智	平成13年4月1日	春日 健	平成26年4月1日
山形 弘道	平成14年4月1日	根岸 嘉和	平成27年4月1日
岩松 幸雄	平成15年4月1日	山ノ内 正司	平成29年4月1日
日下部 剛資	平成15年4月1日	中村 隆行	平成30年4月1日
渡辺 洋太郎	平成16年4月1日	青柳 克弘	令和3年4月1日
官野 一彦	平成16年4月1日	大槻 正伸	令和4年4月1日
大隈 信行	平成18年4月1日	鈴木 三男	令和4年4月1日
亀井 宣男	平成19年4月1日	宮澤 泰彦	令和4年4月1日
橋本 孝一	平成19年4月1日	石原 万里	令和4年4月1日
渡辺 博	平成21年4月1日	山下 治	令和5年4月1日
山野 和一	平成22年4月1日	鈴木 晴彦	令和5年4月1日
根本 信行	平成22年4月1日	原田 正光	令和5年4月1日
井上 和人	平成22年4月1日	高野 克宏	令和6年4月1日
佐東 信司	平成23年4月1日	田口 重憲	令和7年4月1日
森川 治	平成23年4月1日	内田 修司	令和7年4月1日
渡辺 敏夫	平成25年4月1日	芥川 一則	令和7年4月1日
西山 公紀	平成25年4月1日	笠井 哲	令和7年4月1日

シンボルツリー「けやき」

組織

●教職員数

区 分	教職員数
校 長	1
教 授	22 (1)
准 教 授	31 (3)
講 師	8 (1)
助 教	7 (1)
小 計	69 (6)
事務系職員	43 (14)
計	112 (20)

令和8年4月1日現在 ()内は女子数

●役 職 員

校 長	岡 本 任 弘		機械システム工学科長	赤 尾 尚 洋
副校長(総務・リスク担当)	緑 川 猛 彦		電気電子システム工学科長	濱 崎 真 一
教務主事・副校長(教務担当)	齊 藤 充 弘		化学・バイオ工学科長	車 田 研 一
学生主事・副校長(学生担当)	高 橋 宏 宣	学 科 長	都市システム工学科長	菊 地 卓 郎
寮務主事・校長補佐(寮務担当)	山 田 貴 浩		ビジネスコミュニケーション学科長	湯 川 崇
副校長(専攻科担当)	小 出 瑞 康		一般教科長	吉 村 忠 晴
副校長(企画・評価担当)	植 英 規		図書館長	吉 村 忠 晴
副校長(地域連携担当)	菊 地 卓 郎		情報処理教育センター長	植 英 規
副校長(研究担当)	梅 澤 洋 史		地域環境テクノセンター長	菊 地 卓 郎
副校長(グローバル化担当)	赤 尾 尚 洋		国際化・SDGs推進センター長	赤 尾 尚 洋
副校長(復興支援・広報担当)	鈴 木 茂 和		SDGs推進コーディネータ	橋 本 慎 也
専 攻 科	専攻科長	小 出 瑞 康	モノづくり教育研究支援センター長	篠 木 政 利
	産業技術システム工学専攻長	小 出 瑞 康	学生保健センター長	柴 田 公 彦
	生産・情報システム工学コース長	植 英 規	学生学習支援センター長	宮 本 拓 歩
	エネルギーシステム工学コース長	鄭 耀 陽	サステナブルイノベーションセンター長	緑 川 猛 彦
	化学・バイオ工学コース長	押 手 茂 克	事務部長	矢 野 耕 一
	社会環境システム工学コース長	高 荒 智 子	総務課長	水 戸 部 幸 雄
	ビジネスコミュニケーション学専攻長	湯 川 崇	学生課長	玉 田 邦 彦
	ビジネスコミュニケーション学コース長	湯 川 崇		

■収入決算額 (令和7年度)

令和8年3月31日現在

(千円)

区 分	決算額
運営費交付金	83,185
授 業 料	206,359
入学・検定料	25,152
財産貸付料	6,809
その他収入	26,450
施設整備費	166,540
合 計	514,495

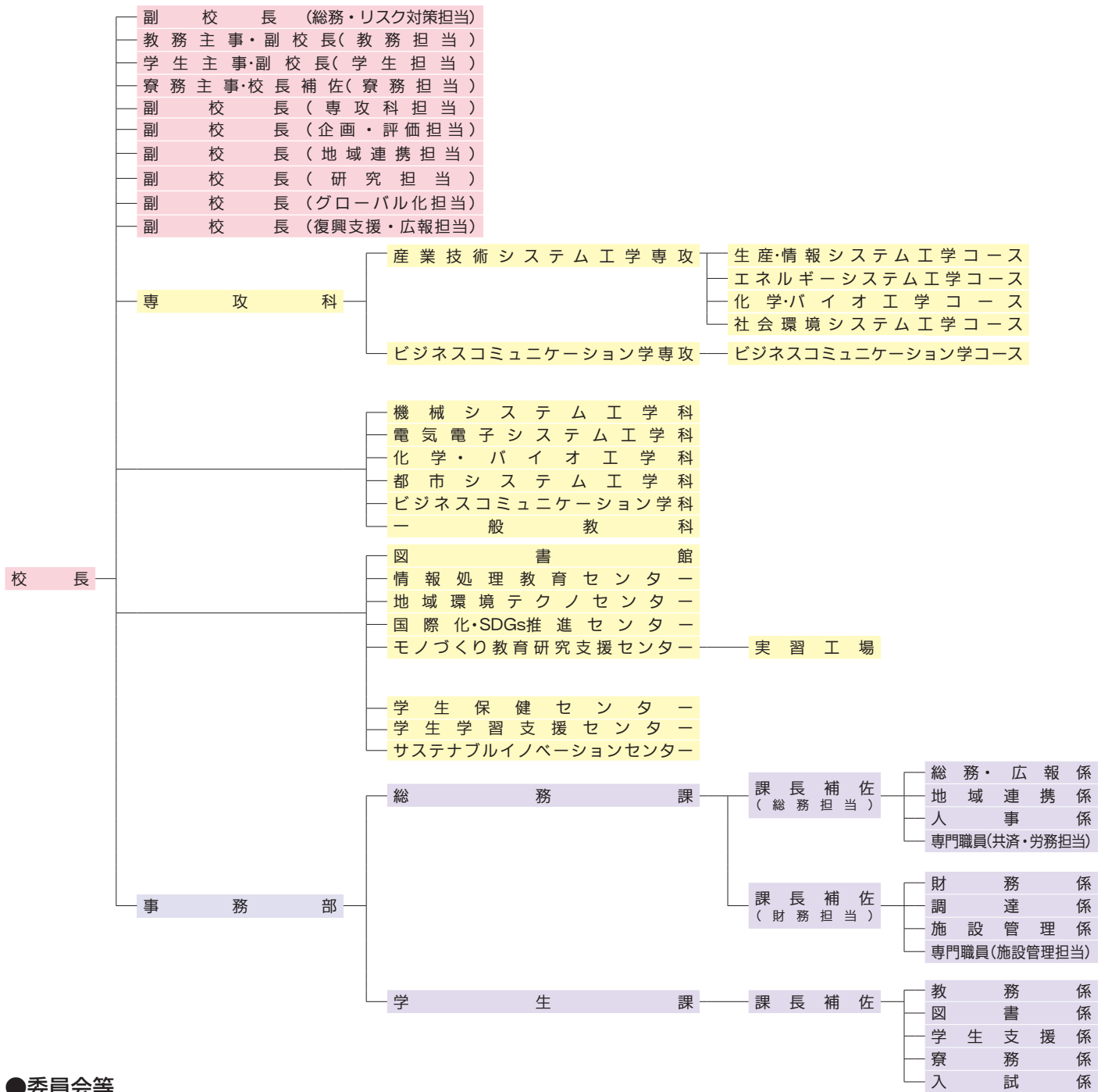
※科学研究費補助金及び外部資金を除く

■科学研究費助成事業及び外部資金の受入状況

(千円)

科学研究費助成事業	22	23,190
共 同 研 究	29	24,125
受 託 研 究	13	41,962
受 託 事 業	10	37,040
補 助 金	7	84,681
寄 附 金	35	23,022
その他の助成金	6	1,400

●組織図

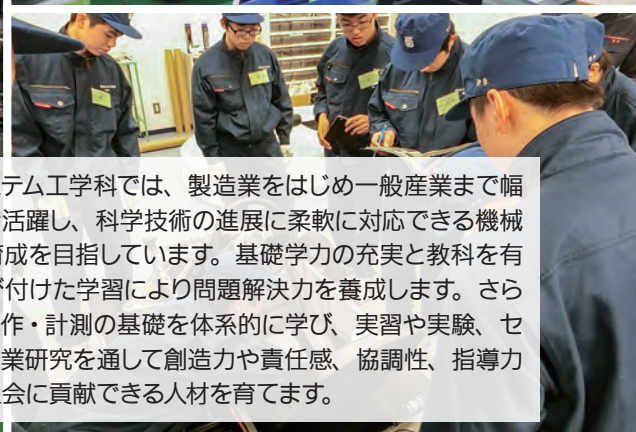
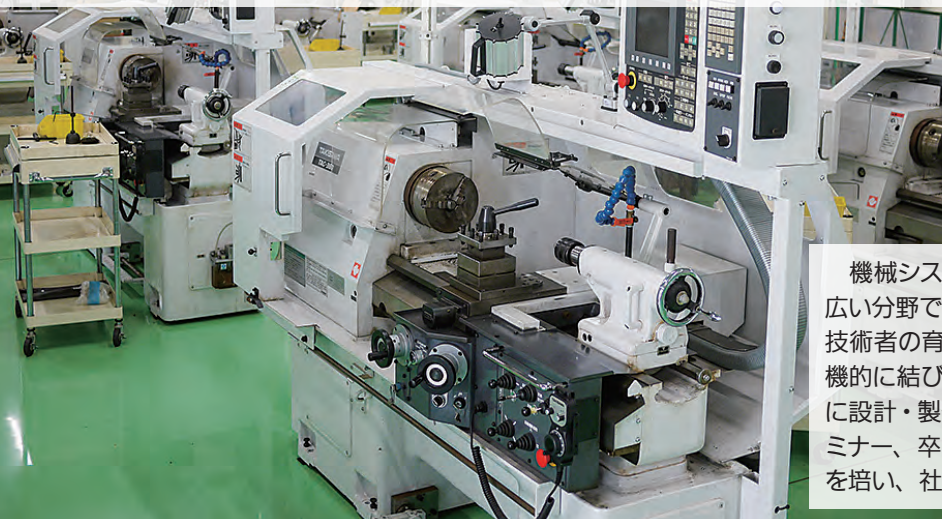


●委員会等

運営会議	技術科学大学連携室
教員会議	サステナブルイノベーションセンター運営委員会
リスク管理室	アクティブラーニング推進委員会
男女共同参画・キャリア教育支援室	ハラスメント対策委員会
教務委員会	総合評価審査委員会
学生委員会	T O E I C 実施委員会
寮務委員会	障害学生支援委員会
入学試験委員会	動物実験委員会
専攻科委員会	研究推進ワーキンググループ
広報委員会	図書運営委員会
安全衛生委員会	情報処理教育センター運営委員会
組換えDNA実験安全委員会	地域環境テクノセンター運営委員会
人を対象とする研究倫理委員会	国際化・SDGs推進センター運営委員会
F D 委員会	モノづくり教育研究支援センター運営委員会
情報セキュリティ管理委員会	学生保健センター運営委員会
情報セキュリティ推進委員会	学生学習支援センター運営委員会
知的財産委員会	研究紀要編集委員会
評価改善委員会	いじめ対策委員会

機械システム工学科

Department of Mechanical System Engineering



機械システム工学科では、製造業をはじめ一般産業まで幅広い分野で活躍し、科学技術の進展に柔軟に対応できる機械技術者の育成を目指しています。基礎学力の充実と教科を有機的に結び付けた学習により問題解決力を養成します。さらに設計・製作・計測の基礎を体系的に学び、実習や実験、セミナー、卒業研究を通して創造力や責任感、協調性、指導力を培い、社会に貢献できる人材を育てます。

養成する人材像

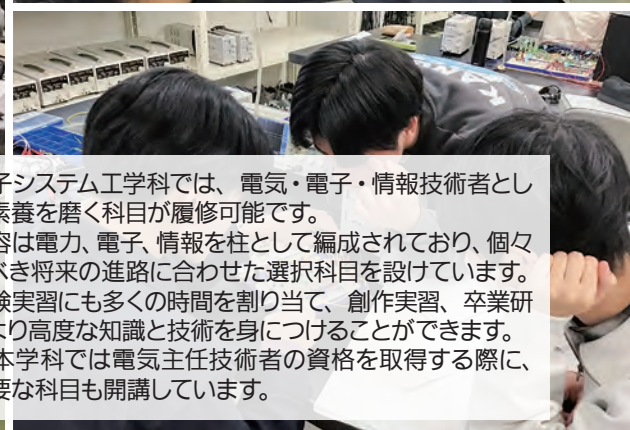
機械工学の専門知識を持って他分野の技術も取り入れることで、高度化するシステムに対処し、常に発展する新しいモノづくりを担うことができる機械技術者を育成する。

●教 員

職 名	氏 名 (学位)	主な担当科目	備 考
教 授	赤 尾 尚 洋(博士(工学))	材料強度学 メカトロニクス (専)材料科学	副校長(グローバル化担当) 学科長
	鄭 耀 陽(博士(工学))	機構学 制御工学 (専)応用メカトロニクス (専)制御システム工学	産業技術システム工学専攻 エネルギーシステム工学コース長
	小 出 瑞 康(博士(工学))	創作実習 機械力学Ⅰ、Ⅱ (専)システムデザイン (専)エネルギー変換工学	副校長(専攻科担当) 専攻科長 産業技術システム工学専攻長
	鈴 木 茂 和(博士(工学))	材料学 (専)応用塑性加工学	副校長(復興支援・広報担当)
准 教 授	松 尾 忠 利(博士(工学))	材料力学Ⅰ、Ⅱ 創作実習	
	篠 木 政 利(博士(工学))	熱力学 エネルギー工学 (専)熱流体工学	モノづくり教育研究支援センター長
	野 田 幸 矢(博士(工学))	設計製図Ⅰ 応用設計製図 ロボット基礎 (専)応用メカトロニクス (専)制御システム工学	
助 教	山 口 直 也(博士(工学))	機械工作法Ⅱ 設計製図Ⅱ 工業力学	
嘱託教授	高 橋 章(博士(工学))	伝熱工学 水力学	

電気電子システム工学科

Department of Electrical and Electronic System Engineering Engineering



電気電子システム工学科では、電気・電子・情報技術者として必要な素養を磨く科目が履修可能です。
その内容は電力、電子、情報を柱として編成されており、個々が目指すべき将来の進路に合わせた選択科目を設けています。
また実験実習にも多くの時間を割り当て、創作実習、卒業研究を経てより高度な知識と技術を身につけることができます。
なお、本学科では電気主任技術者の資格を取得する際に、申請に必要な科目も開講しています。

養成する人材像

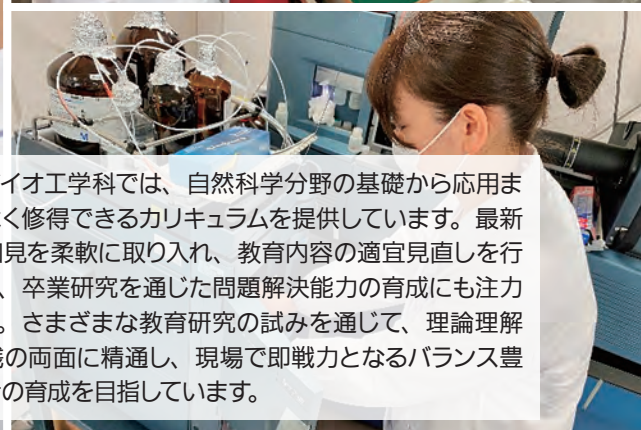
電気・電子・情報の技術を応用することでシステムを構築し、産業界の多様な問題を解決できるクリエイティブな技術者を育成する。

●教員

職名	氏名(学位)	主な担当科目	備考
教授	濱崎 真一(博士(理工学))	電子回路Ⅰ 電子回路設計 (専)応用電子制御工学	学科長
	若松 孝(博士(工学))	電気電子計測Ⅱ 電子工学Ⅱ	
	植 英規(博士(工学))	電気電子計測Ⅰ 情報工学Ⅲ (専)システムデザイン (専)品質工学	副校長(企画・評価担当) 産業技術システム工学専攻 生産・情報システム工学コース長 情報処理教育センター長
准教授	山田 貴浩(博士(工学))	電気回路Ⅰ デジタル回路Ⅰ (専)産業応用情報工学	寮務主事 校長補佐(寮務担当)
	小泉 康一(博士(情報科学))	通信工学Ⅰ 情報工学Ⅰ (専)情報科学論	
	豊島 晋(博士(工学))	電気磁気学基礎 電子回路Ⅱ (専)応用半導体工学	
	橋本 慎也(博士(工学))	電気製図 創作実習 (専)電力流通工学	SDGs推進コーディネータ
	佐々木 修平(博士(工学))	電気機器Ⅰ 電気機器Ⅱ (専)応用電磁気学	
嘱託教授	伊藤 淳(博士(工学))	電気磁気学Ⅰ 電気磁気学Ⅱ	
特命教授	鈴木 晴彦(博士(電気工学))	工業英語Ⅱ パワーエレクトロニクス (専)電子物性工学	福島高専名誉教授

化学・バイオ工学科

Department of Applied Chemistry and Biochemistry



化学・バイオ工学科では、自然科学分野の基礎から応用までを効率よく修得できるカリキュラムを提供しています。最新の科学的知見を柔軟に取り入れ、教育内容の適宜見直しを行うとともに、卒業研究を通じた問題解決能力の育成にも注力しています。さまざまな教育研究の試みを通して、理論理解と技術実践の両面に精通し、現場で即戦力となるバランス豊かな技術者の育成を目指しています。

養成する人材像

持続可能な社会を実現するために、物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、生物化学、化学工学などの専門分野の基礎知識を身につけ、化学製品、材料、食品など物質生産の分野において幅広く活躍できる化学技術者を育成する。

●教 員

職 名	氏 名 (学位)	主な担当科目	備 考
教 授	車 田 研 一(博士(工学))	化学工学 (専)物質プロセス工学	学科長
	天 野 仁 司(博士(理学))	生命化学	
	野 澤 宏 大(博士(理学))	化学	
	柴 田 公 彦(博士(工学))	生物化学 (専)生体分子機能工学 (専)産業技術論	学生保健センター長
	梅 澤 洋 史(博士(理学))	有機化学 (専)応用有機化学 (専)応用合成化学	副校長(研究担当)
准 教 授	押 手 茂 克(博士(工学))	分析化学 (専)環境保全工学 (専)現代分析化学	産業技術システム工学専攻 化学・バイオ工学コース長
	加 藤 健(博士(工学))	分離分析化学 (専)構造物理化学	
	森 崇 理(博士(工学))	有機合成化学 (専)システムデザイン (専)応用材料化学	
	十 亀 陽一郎(博士(理学))	微生物工学 (専)生体分子機能工学	
講 師	青 木 寿 博(博士(工学))	化学工学 (専)物質プロセス工学	
助 教	三 上 進 一(博士(理学))	無機化学	
嘱託教授	内 田 修 司(修士(工学))	機器分析 (専)構造物理化学	福島高専名誉教授
嘱託准教授	酒 巻 健 司(博士(工学))	物理化学 (専)現代化学	

都市システム工学科

Department of Civil and Environmental Engineering



都市システム工学科では、自然環境に配慮した道路や橋・港湾等の整備ができるとともに、古くなった道路や橋の維持管理や災害に強いまちづくりができる技術者の育成をめざしています。そのために、各種構造物の計画・設計・施工・維持管理に必要な力学系科目や自然災害を最小限に抑えるために必要な防災・減災系の科目を学びます。また、それらをしっかり身につけるために、実験・実習を重視したカリキュラムになっています。なお、令和5年度入学生からは建築系科目も取り入れ、卒業時に2級建築士の受験資格が得られるカリキュラムになっています。

養成する人材像

持続可能な建設技術を基礎に、社会基盤施設の維持・管理分野や自然災害に対する防災・減災分野で活躍できるシビルエンジニアを育成する。

●教員

職名	氏名(学位)	主な担当科目	備考
教授	菊地卓郎(博士(工学))	水理学Ⅰ・Ⅱ 水防災工学 (専)減災工学 (専)水工学	副校長(地域連携担当) 学科長 地域環境テクノセンター長
	緑川猛彦(博士(工学)、技術士)	コンクリート構造設計演習 コンクリート構造工学 (専)減災工学	副校長(総務・リスク対策担当) サステナブルイノベーション センター長
	齊藤充弘(博士(工学)、技術士)	地域計画 システム工学 (専)数理計画論 (専)減災工学	教務主事 副校長(教務担当)
	高荒智子(博士(工学))	水処理工学Ⅰ 環境科学 (専)水環境工学	
准教授	金高義(博士(工学))	測量学Ⅰ・Ⅱ 測量実習Ⅰ・Ⅱ 施工法Ⅱ	
	増戸洋幸(博士(工学)、技術士)	材料学 工学実験・演習 施工法Ⅰ (専)減災工学	
	丹野淳(博士(工学))	水処理工学Ⅱ 防災学 環境工学Ⅰ・Ⅱ	
	三浦拓也(博士(工学))	地盤工学Ⅰ・Ⅱ 応用地盤工学 (専)減災工学 (専)地盤工学特論	
講師	浅野寛元(博士(工学))	維持・管理工学基礎 構造力学Ⅰ (専)維持・管理工学	
助教	相馬悠人(博士(工学))	構造力学Ⅱ・Ⅲ 工学実験・演習 (専)構造解析論	

ビジネスコミュニケーション学科

Department of Business Communication



現代社会は科学技術の適正利用や地球環境の持続可能性などの複雑な課題に直面しており、震災やコロナ禍の経験を経て、広い視野と深い洞察力をもつ人材が求められています。ビジネスコミュニケーション学科は、人文・数理・語学・経営・経済・情報・会計の七つの領域にわたる基礎教育に加え、学生各自の関心や将来の目標に応じた領域の重点的な履修を通じて、幅広い教養と高い専門性を兼ね備えたビジネスの現場で活躍できる人材を育成します。

養成する人材像

社会に対して広く関心を持ち、進展するグローバル化に対応できるリテラシー（語学や情報など）を身につけるとともに、環境問題に配慮し持続可能な社会に貢献できる人材を育成する。

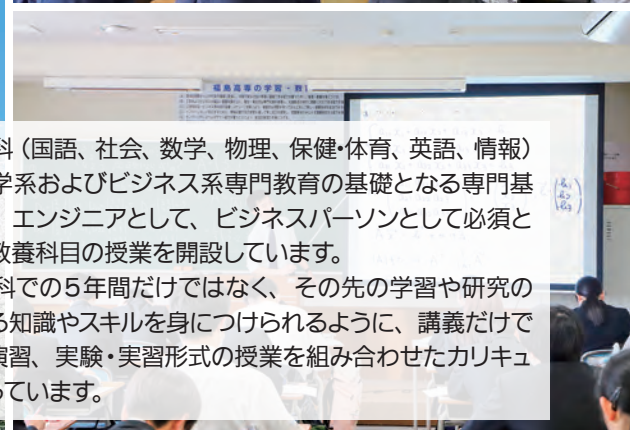
●教員

職名	氏名(学位)	主な担当科目	備考
教授	湯川 崇(博士(工学))	プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ 情報処理演習A・B (専)データ分析論 (専)経営学演習	学科長 ビジネスコミュニケーション学 専攻長同コース長
准教授	渡邊 エリカ(修士(教育学))	English BasicsⅠ・Ⅱ Business English PracticeⅠ・Ⅱ (専)経営学演習 (専)ビジネス英語	
	大仁田 香織(博士(学術))	経営入門Ⅰ・Ⅱ 国際経営論 (専)経営学演習	
	田淵 義英(博士(学術))	現代社会の理論Ⅰ・Ⅱ 現代社会特論Ⅱ (専)経営学演習	
	杉山 武史(博士(理学))	微積分Ⅰ・Ⅱ 線形代数 (専)生産管理論 (専)数理意思決定論	
講師	若林 晃央(修士(経済学))	組織論 経営戦略論 (専)システムデザイン (専)経営学演習	
	高木 信太郎(修士(政策・メディア))	国際経済学 環境経済学 (専)経営学演習	
助教	阿部 智博(修士(経済学))	簿記入門Ⅰ・Ⅱ 財務会計 (専)財務諸表論 (専)経営分析論	
特命教授	芥川 一則(博士(情報科学))	マクロ経済学 開発学Ⅰ・Ⅱ (専)都市経済学 (専)経済産業論	福島高専名誉教授
特命助教	金子 佳央	アントレプレナーシップ実践	

一般教科



Department of General Education



一般教科(国語、社会、数学、物理、保健・体育、英語、情報)では、工学系およびビジネス系専門教育の基礎となる専門基礎科目と、エンジニアとして、ビジネスパーソンとして必須となる一般教養科目の授業を開講しています。

高専本科での5年間だけではなく、その先の学習や研究の基盤となる知識やスキルを身につけられるように、講義だけではなく、演習、実験・実習形式の授業を組み合わせたカリキュラムになっています。

●教 員

職 名	氏 名 (学位)	主な担当科目	備 考
教 授	吉 村 忠 晴(理学修士)	経済学	学科長 図書館長
	西 浦 孝 治(博士(理学))	数学	
	川 崎 俊 郎(修士(文学))	産業経済史	
	高 橋 宏 宣(博士(文学))	国語	学生主事 副校長(学生担当)
	本 田 崇 洋(修士(文学))	英語 (専)現代英語Ⅲ	
准 教 授	布 施 雅 彦(博士(学術))	情報基礎	
	小 倉 恵 実(修士(社会学))	英語	
	大須賀 心 綾(修士(教育学))	英語 (専)現代英語Ⅰ	
	木次谷 聡(修士(教育学))	保健・体育	
	宮 本 拓 歩(博士(情報科学))	数学	学生学習支援センター長
	廣 瀬 大 輔(博士(理学))	数学	
	飯 田 毅 士(博士(理学))	数学	
	澤 田 幸 一(博士(理学))	数学	
	田 嶋 和 明(博士(理学))	数学 (専)応用解析学	
	大 岩 慎太郎(博士(法学))	法学	
郭 飛 鴻(修士(歴史学))	英語 (専)現代英語Ⅱ		
講 師	伊 藤 有 子(修士(教育学))	英語	
	小野里 宏 樹(博士(理学))	物理	
	田 中 祐 希(博士(理学))	物理	
	渡 部 裕 太(博士(文学))	国語 (専)日本文化論	
助 教	Campbell Allen Martin (修士(英語学))	英語	
	端 野 克 哉(博士(理学))	物理 (専)力学総論	
	照 井 佳那子(教職修士(専門職))	国語	
嘱託教授	笠 井 哲(文学修士)	技術者倫理 (専)SDGs探究 (専)科学技術史	福島高専名誉教授
	根 本 昌 樹	保健・体育	

教育課程 準学士（本科）

福島高専カリキュラムポリシー（抜粋）

●編成方針

- (1) 準学士課程(本科)においては、くさび型※の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身に付けるための必修科目、選択科目を適切に設定した、5年一貫の体系的な教育課程を編成する。専攻科においては、準学士課程の内容からの接続、発展を考慮した、より高度な教育課程を編成する。
- (2) 「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、および専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。
- (3) 教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の修得、それらを活用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。
※くさび型の教育課程：低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程

●学科毎の編成方針

- (1) 豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習ができる人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に

機械システム工学科：力学系、材料・加工系、機構・制御系を基盤とした専門基礎科目

電気電子システム工学科：電力系、電気・電子系、情報系を基盤とした専門基礎科目

化学・バイオ工学科：応用化学系、生物工学系を基盤とした専門基礎科目

都市システム工学科：力学系、環境系、計画系を基盤とした専門基礎科目

ビジネスコミュニケーション学科：経済・経営・会計系、数理・情報系、語学・人文系を基盤とした社会科学の専門基礎科目

を設け、講義を主とした学修を実施する。

- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

一般科目

機械システム工学科・電気電子システム工学科
化学・バイオ工学科・都市システム工学科共通

		授業科目	単位数	開講学年	備考	
必修 科目	数学	数学ⅠA	4	1		
		数学ⅠB	2	1		
		数学ⅡA	4	2		
		数学ⅡB	2	2		
		数学ⅢA	2	3		
		数学ⅢB	2	3		
		数学Ⅳ	4*	4		
	理科	物理	6	1-3		
		化学	4	1-2		
	外国語	英語ⅠA	4	1		
		英語ⅠB	2	1		
		英語ⅡA	2	2		
		英語ⅡB	2	2		
		英語Ⅲ	4	3		
	国語	英語Ⅳ	4*	4		
		国語	6	1-3		
		人文科学Ⅰ	2	1		
		社会科学Ⅰ	2	2		
	人文社会	人文社会科学演習Ⅰ	1	2		
		人文社会科学演習Ⅱ	2	3		
		○ 技術者倫理	1	5		
		保健体育	保健・体育	6	1-3	
	芸術	美術	1	1		
	情報	情報基礎	2	1		
	ミニ研究			1	2	
	選択 科目	外国語	英語Ⅴ	2	5	
		国語	日本語表現法	2*	4	
人文社会		経済学基礎	1	4		
		法学基礎	1	4		
		産業経済史	1	5		
グローバル研修			(1)	1-5		

(注) *印は学修単位（高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位）
()の数字は開講期を指定しない単位で外数
○印は都市システム工学科における国土交通大臣の指定する建築に関する科目（指定科目）

ビジネスコミュニケーション学科

		授業科目	単位数	開講学年	備考	
必修 科目	数学	数学	6	1-2		
		理科	化学	2	1	
	物理		2	2		
	英語	英語ⅠA	4	1		
		英語ⅠB	2	1		
		英会話Ⅰ	2	1		
		英語ⅡA	2	2		
		英語ⅡB	2	2		
		英会話Ⅱ	2	2		
		英語Ⅲ	4	3		
		英会話Ⅲ	2	3		
	国語	英語Ⅳ	4*	4		
		国語	10	1-3		
		人文社会	人文科学Ⅰ	2	1	
			人文科学Ⅱ	2	1	
	社会科学Ⅰ		2	2		
	社会科学Ⅱ		1	2		
	人文社会科学演習Ⅰ		1	2		
	人文社会科学演習Ⅱ		2	3		
	法学		2	4		
	ミクロ経済学		2	4		
	技術者倫理	1	5			
	保健体育	保健・体育	6	1-3		
	芸術	美術	1	2		
	情報	情報基礎	2	1		
	ミニ研究			1	2	
	選択 科目	英語	英語特論Ⅰ	2	3	
英語特論Ⅱ			2	4		
英語Ⅴ			2	5		
国語		文学	1	4		
人文社会		産業経済史	1	5		
グローバル研修			(1)	1-5		

(注) *印は学修単位（高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位）
()の数字は開講期を指定しない単位で外数

専門科目

機械システム工学科

授業科目		単位数	開講学年	備考
必修科目	機械製図Ⅰ	2	1	
	機械製図Ⅱ	2	2	
	設計製図Ⅰ	2	3	
	設計製図Ⅱ	2*	4	
	応用設計製図	4*	5	
	機械システム工学基礎	2	1	
	モノづくり基礎	2	2	
	モノづくり実習	2	3	
	創作実習	2*	4	
	工学実験	8*	4-5	
	工学セミナー	2	4	
	卒業研究	9	5	
	機械システム工学概論	1	1	
	機械工作法Ⅰ	2	2	
	材料学	2	2	
	環境科学基礎	1	2	
	工業力学	2	3	
	材料力学Ⅰ	2	3	
	機械工作法Ⅱ	1	3	
	機構学	2	3	
	情報処理	2	3	
	電気工学基礎	1	3	
	応用物理	4*	4	
	材料力学Ⅱ	1	4	
	熱力学	2	4	
	水力学	2	4	
	機械力学Ⅰ	1	4	
	環境工学	1*	4	
	ロボット基礎	2	4	
	校外実習	(1)	4-5	
	数学Ⅴ	2*	5	
	伝熱工学	2	5	
制御工学	2	5		
知的財産権	1	5		

授業科目		単位数	開講学年	備考
選択科目	物理学特論	1	4	
	情報処理演習	2*	4	
	工業英語	1*	4	
	メカトロニクス	1*	4	
	CAD, CAM	1*	4	
	材料強度学	1*	4	
	経営学概論	1	4	
	生産工学	1*	5	
	ロボット工学	1*	5	
	計測工学	1*	5	
	塑性加工学	1*	5	
	機械力学Ⅱ	1*	5	
	流体力学	1*	5	
	エネルギー工学	1*	5	
	エネルギー機械	1*	5	
	シーケンス制御	1*	5	
	ロボット制御工学	1*	5	
	AI演習	1	5	集中講義
	アントレプレナーシップ入門	1	1	
	アントレプレナーシップ実践	1*	4	集中講義
	原子力発電基礎	1	1	集中講義
	放射線基礎	1	2	集中講義
	廃炉ロボット概論	1	3	集中講義
	廃炉工学	1	4	集中講義
	防災学	2*	5	
	チャレンジセミナー	(1)	1-5	

(注) *印は学修単位（高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位）
 ()の数字は開講期を指定しない単位で外数

電気電子システム工学科

授業科目		単位数	開講学年	備考
必修科目	◎ 電気電子システム工学実験	10	2-5	5単位* (4,5年開講分)
	◎ 電気回路基礎・実習	2	1	
	◎ 電気磁気学基礎	1	1	
	○ 電気製図	2	1	
	◎ 電気電子計測 I	1	2	
	○ 情報工学 I	2	2	
	◎ 電気回路 I	4	2-3	
	◎ 電気磁気学 I	2	3	
	◎ 電気電子計測 II	2	3	
	◎ 電気機器 I	2	3	
	○ 情報工学 II	2	3	
	○ 電子回路 I	2	3	
	◎ 電気機器 II	2	4	
	◎ 電気磁気学 II	2	4	
	◎ 電気回路 II	2	4	
	◎ パワーエレクトロニクス	1	4	
	○ 電子回路 II	2*	4	
	○ 電子工学 I	2*	4	
	◎ 制御工学	1*	5	
	◎ 電力工学	2	5	
	◎ 電力システム工学	2*	5	
	○ 電気電子材料工学	2	5	
	○ 電子工学 II	1*	5	
	環境科学基礎	1	2	
	創作実習	2*	4	
	電子回路設計	1	4	
	工学セミナー	1	4	
	応用物理	4*	4	
	工業英語 I	1*	4	
	校外実習	(1)	4-5	
	卒業研究	8	5	
	知的財産権	1	5	
工業英語 II	1*	5		
数学V	2*	5		

授業科目		単位数	開講学年	備考
選択科目	◎ 電気法規	1	5	
	○ 高電圧工学	1	5	
	○ 計算機工学	2	5	
	デジタル回路 I	1	2	
	情報工学 III	2*	4	
	デジタル回路 II	1	4	
	通信工学 I	1	4	
	物理学特論	1	4	
	機械工学概論	2	4	
	経営学概論	1	4	
	電力情報	2*	5	
	シーケンス制御	1*	5	
	ロボット制御工学	1*	5	
	コンピュータネットワーク	1*	5	
	通信工学 II	1*	5	
	AI 演習	1	5	集中講義
	環境工学	1	5	
	アントレプレナーシップ入門	1	1	
	アントレプレナーシップ実践	1*	4	集中講義
	原子力発電基礎	1	1	集中講義
	放射線基礎	1	2	集中講義
	廃炉ロボット概論	1	3	集中講義
	廃炉工学	1	4	集中講義
防災学	2*	5		
チャレンジセミナー	(1)	1-5		

(注) ◎印は第2種電気主任技術者資格取得のための必修得科目、○印は関係科目
 *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)
 ()の数字は開講期を指定しない単位で外数

専門科目

化学・バイオ工学科

	授業科目	単位数	開講学年	備考
必修科目	基礎化学実験Ⅰ	2	1	
	基礎化学実験Ⅱ	4	2	
	情報処理Ⅰ	1	2	
	創造実験実習Ⅰ	1	3	
	創造実験実習Ⅱ	1	3	
	化学・バイオ工学基礎実験Ⅰ	4	3	
	化学・バイオ工学基礎実験Ⅱ	2	4	
	化学・バイオ工学実験	2	4	
	化学・バイオ工学セミナー	1	4	
	情報処理Ⅱ	1	4	
	卒業研究	10	5	
	基礎生物学	2	1	
	分析化学	2	2	
	材料化学基礎	2	2	
	環境科学基礎	1	2	
	物理化学基礎	2	3	
	無機化学基礎	2	3	
	有機化学基礎	2	3	
	生物化学基礎	1	3	
	工業英語	2	3	
	物理化学Ⅰ	2	4	
	無機化学Ⅰ	2	4	
	有機化学Ⅰ	2	4	
	生物化学Ⅰ	2	4	
	化学工学	2	4	
	微生物工学	2	4	
	機器分析Ⅰ	1	4	
	機器分析Ⅱ	1	4	
	環境科学Ⅰ	2	4	
	応用物理	4*	4	
	数学Ⅴ	2*	5	
	高分子化学	2*	5	

	授業科目	単位数	開講学年	備考
選択科目	工業化学概論	1	3	
	校外実習	(1)	4-5	
	物理学特論	1	4	
	経営学概論	1	4	
	物理化学Ⅱ	2*	5	
	物理化学Ⅲ	2*	5	
	無機化学Ⅱ	2*	5	
	有機化学Ⅱ	2*	5	
	生物化学Ⅱ	2*	5	
	生物化学Ⅲ	2*	5	
	化学プロセス概論	2*	5	
	環境科学Ⅱ	2*	5	
	生物資源化学	2*	5	
	機械工学概論	1	5	
	電子工学概論	1	5	
	知的財産権	1	5	
	AI 演習	1	5	集中講義
	アントレプレナー入門	1	1	
	アントレプレナー実践	1*	4	集中講義
	原子力発電基礎	1	1	集中講義
	放射線基礎	1	2	集中講義
	廃炉ロボット概論	1	3	集中講義
	廃炉工学	1	4	集中講義
	防災学	2*	5	
	チャレンジセミナー	(1)	1-5	

(注) *印は学修単位（高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位）
 ()の数字は開講期を指定しない単位で外数

都市システム工学科

授業科目		単位数	開講学年	備考
必修科目	○ 工学実験・演習	3	2-3	
	工学実験・演習	6*	4-5	
	都市システム概論	1	1	
	○ 製図法 I	2	1	
	CAD I	1	1	
	○ 材料学	2	1	
	○ 構造力学 I	2	2	
	環境科学基礎	1	2	
	応用物理	4*	4	
	○ 測量学 I	2	2	
	○ 測量実習 I	2	2	
	○ 構造力学 II	2	3	
	土木演習 I	1	3	
	○ 地盤工学 I	1	3	
	水理学 I	1	3	
	環境科学	1	3	
	○ 測量学 II	2	3	
	○ 測量実習 II	2	3	
	土木情報処理 I	2*	4	
	○ 構造力学 III	2	4	
	橋梁工学	1	4	
	○ コンクリート構造工学	2	4	
	○ 地盤工学 II	2*	4	
	水理学 II	2	4	
	水処理工学 I	1	4	
	○ 地域計画	2	4	
	システム工学	1	4	
	施工法 I	1	5	
	技術英語 I	1	3	
	校外実習	(1)	4-5	
土木演習 II	2*	5		
卒業研究	10	5		
数学 V	2*	5		

授業科目		単位数	開講学年	備考	
必修科目	○ 応用地盤工学	1	5		
	環境工学 I	2*	5		
	水処理工学 II	1	4		
	交通工学	1	5		
	工学セミナー	2	4		
	都市基盤	維持・管理工学基礎	1	5	防災・減災系列は選択科目
		○ コンクリート構造設計演習	2*	5	防災・減災系列は選択科目
	防災・減災	水防災工学	1	5	都市基盤系列は選択科目
		防災学	2*	5	都市基盤系列は選択科目

授業科目		単位数	開講学年	備考
選択科目	○ CAD II	1	2	
	製図法 II	1	3	
	○ 建築法規	2*	5	
	土木情報処理 II	2*	5	
	環境工学 II	1	5	
	○ 施工法 II	1	5	
	技術英語 II	2*	4	
	輸送施設工学	1	5	
	道路施策概論	1	4	
	知的財産権	1	5	
	AI 演習	1	5	集中講義
	物理学特論	1	4	
	経営学概論	1	4	
	アントレプレナーシップ入門	1	1	
	アントレプレナーシップ実践	1*	4	集中講義
	原子力発電基礎	1	1	集中講義
	放射線基礎	1	2	集中講義
	廃炉ロボット概論	1	3	集中講義
	廃炉工学	1	4	集中講義
	チャレンジセミナー	(1)	1-5	

(注) ○印は国土交通大臣の指定する建築に関する科目（指定科目）
 *印は学修単位（高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位）
 ()の数字は開講期を指定しない単位で外数

専門科目

ビジネスコミュニケーション学科

	授業科目	単位数	開講学年	備考
必修科目	日本史Ⅰ	1	1	
	日本史Ⅱ	1	1	
	コミュニケーション論Ⅰ	1	1	
	コミュニケーション論Ⅱ	1	1	
	世界史Ⅰ	1	2	
	世界史Ⅱ	1	2	
	情報基礎演習Ⅰ	1	2	
	情報基礎演習Ⅱ	1	2	
	経営入門Ⅰ	1	2	
	経営入門Ⅱ	1	2	
	簿記概論	1	2	
	数理統計Ⅰ	1	3	
	Business English BasicsⅠ	1	3	
	Business English BasicsⅡ	1	3	
	プログラミング演習Ⅰ	1	3	
	プログラミング演習Ⅱ	1	3	
	経済入門	1	3	
	開発学入門	1	3	
	経営学	1	3	
	財務会計Ⅰ	1	3	
	財務会計Ⅱ	1	3	
	プレセミナーⅠ	1	3	
	プレセミナーⅡ	1	3	
	マクロ経済学Ⅰ	2*	4	
	マクロ経済学Ⅱ	2*	4	
	原価計算	2*	4	
	Research in English	2*	4	
	セミナーⅠ	2	4	
	セミナーⅡ	2	4	
	組織論	2*	4	
	経営戦略論	2*	4	
	財政学	2*	4	
	環境科学	1	4	
	共生システム	2*	5	
応用数学論	2*	5		
校外実習	(1)	4-5		
卒業研究Ⅰ	4	5		
卒業研究Ⅱ	6	5		

	授業科目	単位数	開講学年	備考
選択科目	微積分Ⅰ	1	2	
	現代社会特論A	1	3	
	微積分Ⅱ	1	3	
	微積分Ⅲ	1	3	
	経営情報演習Ⅰ	2*	4	
	経営情報演習Ⅱ	2*	4	
	情報処理演習Ⅰ	2*	4	
	情報処理演習Ⅱ	2*	4	
	線形代数	1	4	
	数理統計Ⅱ	1	4	
	開発学	2*	4	
	会計理論	2*	4	
	Survey of Current Social Events	2*	4	
	国際経営論	2*	5	
	女性労働史	2*	5	
	現代社会特論B	1	5	
	現代社会特論C	1	5	
	Business English PracticeⅠ	2*	5	
	Business English PracticeⅡ	2*	5	
	情報システム演習Ⅰ	2*	5	
	情報システム演習Ⅱ	2*	5	
	数理統計Ⅲ	2*	5	
	国際経済学	2*	5	
	アントレプレナーシップ入門	1	1	
	アントレプレナーシップ実践	1*	4	集中講義
	知的財産権	1	5	
	AI 演習	1	5	集中講義
	原子力発電基礎	1	1	集中講義
	放射線基礎	1	2	集中講義
	廃炉ロボット概論	1	3	集中講義
	廃炉工学	1	4	集中講義
	防災学	2*	5	
	チャレンジセミナー	(1)	1-5	

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)
()の数字は開講期を指定しない単位で外数

専攻科

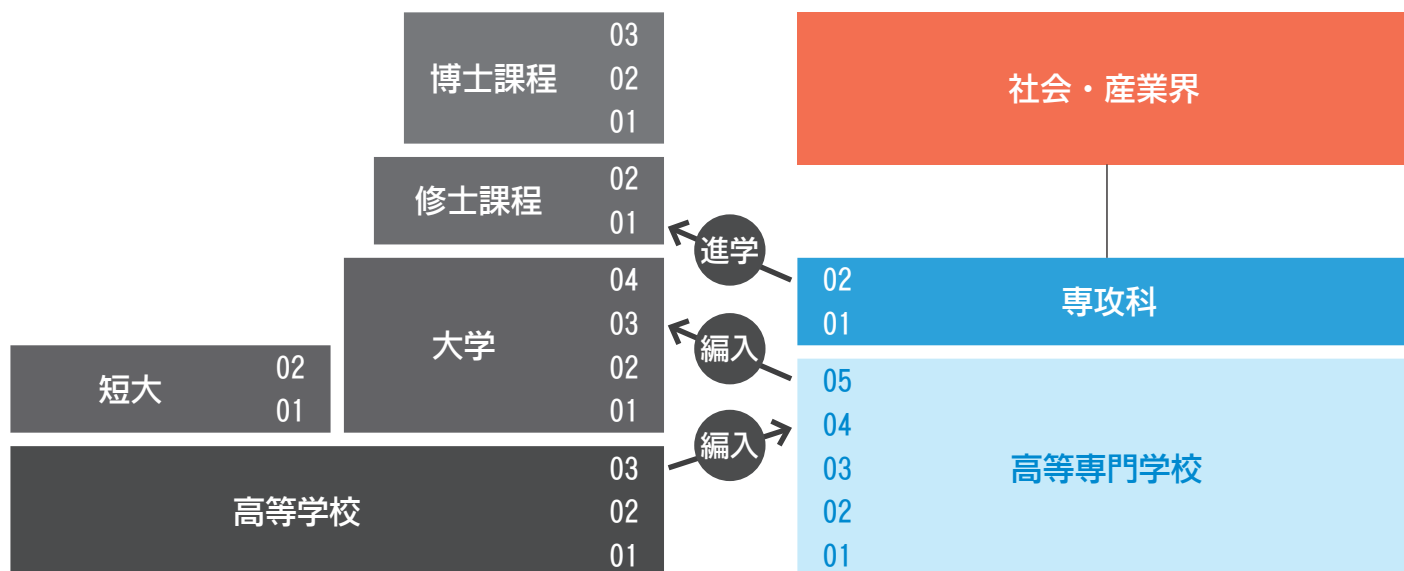
Programs for Advanced Courses

専攻科とは

5年制一貫教育の基盤の上に、さらに高度な専門知識と技術を修得できる2年間の課程です。

産業技術システム工学専攻とビジネスコミュニケーション学専攻の2つの専攻があり、それぞれの分野で専門性を深め、高度な実践能力を養います。

(独) 大学改革支援・学位授与機構の定める条件を満たした者は、学士の学位を得ることができます。



福島高専専攻科の特色

1. 工学系・ビジネス系シナジー効果による技術経営教育

各専攻において、2専攻共通の専門関連科目等を履修するとともに、実践的職業人として必要な他専攻専門分野の知識の習得及び思考力の育成を図ることにより、専門分野の枠組みを超えた技術者やビジネスマンの育成を目指すシナジー教育を実施しています。

2. 実践的かつ創造的な少人数専門教育

高度な専門科目の講義や少人数グループでの実験・セミナーを通して、専門分野の深い理解と実験技術等を修得します。

3. 地域と連携した高度な研究活動

特別研究では、主に地域に密着したテーマを採り上げ、地元企業との共同研究を目指しています。また、創造性に富む研究開発能力を育成するため、学会等での研究成果発表を義務付けています。また、1年生には夏季休業中に長期インターンシップを実施します。

4. 復興人材育成特別プログラム

再生可能エネルギー、原子力安全、減災工学の3分野における復興支援で活躍できる人材を育成するため、復興支援特別科目を7科目開講しています。プログラム履修生は、この科目群から4科目以上を修得し、特別研究で復興支援に関係するテーマに取り組みます。

産業技術システム工学専攻

本科の機械システム工学科、電気電子システム工学科、化学・バイオ工学科、都市システム工学科の専門分野の基礎学力を充実させ、その応用性や専門性を深めます。

○生産・情報システム工学コース

機械系・電気系の材料工学分野及び機械加工系、電子・情報工学系を融合した教育・研究を行います。機械設計関連、システム制御関連、電子物性関連及び情報関連分野においてより高度で応用性の高い専門科目を学び、生産・情報分野で活躍できる人材を育成します。



○エネルギーシステム工学コース

機械系・電気系のエネルギー関連分野の教育・研究を行い、エネルギー分野に関するより高度で応用性の高い専門科目を学び、機械・電気関連のエネルギー分野で活躍できる人材を育成します。



○化学・バイオ工学コース

応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野の教育・研究を行い、その専門性を高めます。現代の応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野における先端技術やその動向に柔軟に対応できる人材を育成します。



○社会環境システム工学コース

土木工学と環境工学に関する専門知識を修得し、さらに関連科目の履修を通して複眼的視野を深めます。日々進化する先端技術に柔軟に対応しつつ、環境に配慮することのできる建設技術を身につけた人材を育成します。



ビジネスコミュニケーション学専攻

ビジネスコミュニケーション学科の専門的な基礎学力を充実させ、その応用性や専門性を深めることで、地域社会の発展に貢献するとともに、グローバルに活躍できる人材を育成します。

○ビジネスコミュニケーション学コース

社会科学系知識の応用力を育み、さらに専門性を深める科目を履修します。加えて、工学系とビジネス系のシナジー効果が期待できる科目を履修することにより、工学の基礎知識と国際社会で通用するビジネスコミュニケーション能力を併せ持つ人材を育成します。



教育課程（専攻科）

福島高専カリキュラムポリシー（抜粋）

●産業技術システム工学専攻の編成方針

- （1）地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- （2）工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を習得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を修得できるように、

生産・情報システム工学コース：機械工学や電気電子工学を基盤として、生産・制御・情報・通信等に関連した専門科目

エネルギーシステム工学コース：機械工学や電気電子工学を基盤として、流体・熱・電力・エネルギー等に関連した専門科目

化学・バイオ工学コース：応用化学系や生物工学系を基盤とした専門科目

社会環境システム工学コース：土木工学や環境工学を基盤とした専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

- （3）モノづくりやシステムデザイン能力を有し、工学－ビジネスのシナジー効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力を修得できるように、産業技術システム工学やビジネスコミュニケーション学に関連する他分野の科目を設け、実験・実習および講義を主とした学修を実施する。
- （4）国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- （5）福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力を修得できるように、復興人材育成科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

●ビジネスコミュニケーション学専攻の編成方針

- （1）地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- （2）工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を習得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を修得できるように、経営学を基盤とした専門科目を設け、講義や演習を主とした学修を実施する。
- （3）工学－ビジネスのシナジー効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力を修得できるように、ビジネスコミュニケーション学や産業技術システム工学に関連する他分野の科目を設け、実習・演習および講義を主とした学修を実施する。
- （4）国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- （5）福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力を修得できるように、復興人材育成科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

教育課程表 専攻科課程

一般科目【各専攻共通】

一般科目

必修選択の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当（時間数）				備 考
			1年		2年		
			前期	後期	前期	後期	
必修科目	SDGs 探究	2	2				ビジネスコミュニケーション学コースは選択科目
	現代英語Ⅰ	2	2				ビジネスコミュニケーション学コースは選択必修科目
選択科目	日本文化論	2	2				
	現代英語Ⅱ	2		2			ビジネスコミュニケーション学コースは選択必修科目 現代英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲから2科目以上修得すること
	現代英語Ⅲ	2			2		
	グローバル研修	1	(1)				
開 設 単 位 計		11	8 (1)		2 (1)		

()の数字は開講期を指定しない単位で外数

産業技術システム工学専攻

※本科の専門分野に応じ異なります

生産・情報システム工学コース<機械工学系>

区分	必修選択の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当（時間数）				備 考
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
専門関連科目	必修科目	システムデザイン	2	2				
		産業財産権	2	2				
		応用解析学	2	2				
		産業技術論	2		2			
		材料科学	2			2		
		製品開発論	2				2	
		産業安全工学総論	2				2	復興人材育成特別科目
	選択科目	力学総論	2	2				
		現代化学	2	2				
		環境保全工学	2	2				復興人材育成特別科目
		応用電子制御工学	2	2				
		新事業開発	2	2				
		数理計画論	2		2			
		応用半導体工学	2		2			
		科学技術史	2			2		
		減災工学	2			2		復興人材育成特別科目
		都市経済学	2				2	復興人材育成特別科目
		システム論	2				2	
		電力流通工学	2				2	復興人材育成特別科目
		電子物性工学	2				2	
応用電磁気学	2				2			
開 設 単 位 計		42	22		20			
専門科目	必修科目	特別研究Ⅰ	6	6				
		特別研究Ⅱ	10			10		
		生産管理論	2	2				
		品質工学	2	2				
		情報科学論	2		2			
		応用メカトロニクス	2			2		復興人材育成特別科目
		制御システム工学	2			2		
		産業応用情報工学	2			2		
		応用塑性加工学	2			2		
		熱流体工学	2				2	
	選択科目	インターンシップA	2			(2)		
		インターンシップB	2			(2)		
		インターンシップC	2			(2)		
		開 設 単 位 計		38	12 (6)		20 (6)	
開 設 単 位 合 計		91	42 (7)		42 (7)			

()の数字は開講期を指定しない単位で外数

※本科の専門分野に応じ異なります

エネルギーシステム工学コース<機械工学系>

区分	必修選択の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当 (時間数)				備 考	
				1 年		2 年			
				前期	後期	前期	後期		
専門関連科目	必修科目	システムデザイン	2	2					
		エネルギー変換工学	2	2					
		産業財産権	2	2					
		応用解析学	2	2					
		産業技術論	2		2				
		材料科学	2			2			
		製品開発論	2				2		
	産業安全工学総論	2				2	復興人材育成特別科目		
	選択科目	力学総論	2	2					
		現代化学	2	2					
		環境保全工学	2	2				復興人材育成特別科目	
		応用電子制御工学	2	2					
		新事業開発	2	2					
		数理計画論	2		2				
		応用半導体工学	2		2				
		科学技術史	2			2			
		減災工学	2			2		復興人材育成特別科目	
		都市経済学	2				2	復興人材育成特別科目	
		システム論	2				2		
		電流通工学	2				2	復興人材育成特別科目	
		電子物性工学	2				2		
		応用電磁気学	2				2		
		開設単位計	44		24		20		
		専門科目	必修科目	特別研究Ⅰ	6	6			
特別研究Ⅱ				10			10		
生産管理論	2			2					
品質工学	2			2					
情報科学論	2				2				
応用メカトロニクス	2					2		復興人材育成特別科目	
制御システム工学	2					2			
産業応用情報工学	2					2			
応用塑性加工学	2					2			
熱流体工学	2						2		
選択科目	インターンシップA		2			(2)			
	インターンシップB		2			(2)			
	インターンシップC		2			(2)			
	開設単位計		38		12(6)		20(6)		
	開設単位合計		93		44(7)		42(7)		

()の数字は開講期を指定しない単位で外数

※本科の専門分野に応じ異なります

生産・情報システム工学コース<電気電子系>

区分	必修選択の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当 (時間数)				備 考		
				1 年		2 年				
				前期	後期	前期	後期			
専門関連科目	必修科目	システムデザイン	2	2						
		生産管理論	2	2						
		産業財産権	2	2						
		応用解析学	2	2						
		産業技術論	2		2					
		製品開発論	2				2			
		産業安全工学総論	2				2	復興人材育成特別科目		
	選択科目	力学総論	2	2						
		現代化学	2	2						
		環境保全工学	2	2				復興人材育成特別科目		
		新事業開発	2	2						
		科学技術史	2			2				
		材料科学	2			2				
		減災工学	2			2		復興人材育成特別科目		
		応用塑性加工学	2			2				
		応用メカトロニクス	2			2		復興人材育成特別科目		
		都市経済学	2				2	復興人材育成特別科目		
		システム論	2				2			
		熱流体工学	2				2			
		開設単位計	38		18		20			
		専門科目	必修科目	特別研究Ⅰ	6	6				
				特別研究Ⅱ	10			10		
				応用電子制御工学	2	2				
				数理計画論	2		2			
情報科学論	2				2					
インターンシップA	2					(2)				
選択科目	品質工学		2	2						
	応用半導体工学		2		2					
	産業応用情報工学		2			2				
	制御システム工学		2			2				
	電子物性工学		2				2			
	応用電磁気学		2				2			
	電流通工学		2				2	復興人材育成特別科目		
	インターンシップB		2			(2)				
	インターンシップC		2			(2)				
開設単位計	42		16(6)		20(6)					
開設単位合計	91		42(7)		42(7)					

()の数字は開講期を指定しない単位で外数

教育課程表 専攻科課程

※本科の専門分野に応じ異なります

エネルギーシステム工学コース<電気電子系>

区分	必修選択の別	授業科目	単位数	学年別配当(時間数)				備考
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
専門関連科目	必修科目	システムデザイン	2	2				
		エネルギー変換工学	2	2				
		生産管理論	2	2				
		産業財産権	2	2				
		応用解析学	2	2				
		産業技術論	2		2			
		製品開発論	2				2	
		産業安全工学総論	2				2	復興人材育成特別科目
	選択科目	力学総論	2	2				
		現代化学	2	2				
		環境保全工学	2	2				復興人材育成特別科目
		新事業開発	2	2				
		科学技術史	2				2	
		材料科学	2				2	
		減災工学	2				2	復興人材育成特別科目
		応用塑性加工学	2				2	
		応用メカトロニクス	2				2	復興人材育成特別科目
		都市経済学	2				2	復興人材育成特別科目
		システム論	2				2	
熱流体工学	2				2			
開設単位計			40	20		20		
専門科目	必修科目	特別研究Ⅰ	6	6				
		特別研究Ⅱ	10			10		
		応用電子制御工学	2	2				
		数理計画論	2		2			
		情報科学論	2		2			
		インターンシップA	2			(2)		
	選択科目	品質工学	2	2				
		応用半導体工学	2		2			
		産業応用情報工学	2				2	
		制御システム工学	2				2	
		電子物性工学	2				2	
		応用電磁気学	2				2	
		電力流通工学	2				2	復興人材育成特別科目
		インターンシップB	2			(2)		
インターンシップC	2			(2)				
開設単位計			42	16(6)		20(6)		
開設単位合計			93	44(7)		42(7)		

()の数字は開講期を指定しない単位で外数

化学・バイオ工学コース

区分	必修選択の別	授業科目	単位数	学年別配当(時間数)				備考	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
専門関連科目	必修科目	システムデザイン	2	2					
		生産管理論	2	2					
		産業財産権	2	2					
		応用解析学	2	2					
		産業技術論	2		2				
		製品開発論	2				2		
		産業安全工学総論	2				2	復興人材育成特別科目	
		力学総論	2	2					
	選択科目	現代化学	2	2					
		環境保全工学	2	2				復興人材育成特別科目	
		新事業開発	2	2					
		情報科学論	2		2				
		数理計画論	2		2				
		科学技術史	2				2		
		応用メカトロニクス	2				2	復興人材育成特別科目	
		減災工学	2				2	復興人材育成特別科目	
		都市経済学	2				2	復興人材育成特別科目	
		システム論	2				2		
		電力流通工学	2				2	復興人材育成特別科目	
開設単位計			38	22		16			
専門科目	必修科目	特別研究Ⅰ	6	6					
		特別研究Ⅱ	10			10			
		物質プロセス工学	2	2					
		応用材料化学	2				2		
		生体分子機能工学	2				2		
		材料科学	2				2		
	選択必修	インターンシップA	2			(2)			
		応用合成化学	2				2		
		構造物理化学	2				2		
		応用有機化学	2				2		
		現代分析化学	2				2		
		選択科目	インターンシップB	2			(2)		
			インターンシップC	2			(2)		
		開設単位計			38	8(6)		24(6)	
開設単位合計			87	38(7)		42(7)			

()の数字は開講期を指定しない単位で外数

社会環境システム工学コース

区分	必修選択の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当 (時間数)				備 考
				1 年		2 年		
				前期	後期	前期	後期	
専門関連科目	必修科目	システムデザイン	2	2				
		生産管理論	2	2				
		産業財産権	2	2				
		応用解析学	2	2				
		産業技術論	2		2			
		製品開発論	2				2	
		産業安全工学総論	2				2	復興人材育成特別科目
	選択科目	力学総論	2	2				
		現代化学	2	2				
		新事業開発	2	2				
		情報科学論	2		2			
		科学技術史	2			2		
		材料科学	2			2		
		応用メカトロニクス	2			2		復興人材育成特別科目
都市経済学	2				2	復興人材育成特別科目		
システム論	2				2			
電力流通工学	2				2	復興人材育成特別科目		
開設単位計			34	18	16			
専門科目	必修科目	特別研究Ⅰ	6	6				
		特別研究Ⅱ	10			10		
		環境保全工学	2	2				復興人材育成特別科目
		構造解析論	2	2				
		数理計画論	2		2			
		水工学	2			2		
		減災工学	2			2		復興人材育成特別科目
		地盤工学特論	2			2		
		維持・管理工学	2				2	
		水環境工学	2				2	
	選択科目	インターンシップA	2			(2)		
		インターンシップB	2			(2)		
		インターンシップC	2			(2)		
		開設単位計			38	12(6)	20(6)	
開設単位合計			83	38(7)	38(7)			

() の数字は開講期を指定しない単位で外数

ビジネスコミュニケーション学専攻

ビジネスコミュニケーション学コース

区分	必修選択の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当 (時間数)				備 考
				1 年		2 年		
				前期	後期	前期	後期	
一般科目	選択必修	現代英語Ⅰ	2	2				2科目以上修得すること
		現代英語Ⅱ	2	2				
		現代英語Ⅲ	2			2		
	選択科目	SDGs 探究	2	2				
日本文化論		2	2					
グローバル研修		1			(1)			
開設単位計			11	8 (1)	2 (1)			
専門関連科目	必修科目	システムデザイン	2	2				
		産業財産権	2	2				
		産業技術論	2		2			
		経済産業論	2			2		復興人材育成特別科目
		製品開発論	2				2	
		都市経済学	2				2	復興人材育成特別科目
		環境保全工学	2	2				復興人材育成特別科目
	選択科目	現代化学	2	2				
		科学技術史	2			2		
		ビジネス英語	2				2	
		減災工学	2			2		復興人材育成特別科目
		産業安全工学総論	2				2	復興人材育成特別科目
		開設単位計			24	10	14	
		専門科目	必修科目	特別研究Ⅰ	6	6		
特別研究Ⅱ	8					8		
経営学演習	2			2				
新事業開発	2			2				
生産管理論	2			2				
データ分析論	2			2				
財務諸表論	2			2				
広告メディア論	2			2				
経営管理論	2				2			
グローバル経営論	2					2		
経営分析論	2					2		
選択科目	インターンシップA		2			(2)		
	情報科学論		2				2	
	システム論		2				2	
	インターンシップB	2			(2)			
インターンシップC	2			(2)				
開設単位計			42	20(6)	16(6)			
開設単位合計			77	38(7)	32(7)			

() の数字は開講期を指定しない単位で外数

廃炉・原子力規制等に関する人材育成の取組

東京電力福島第一原子力発電所事故を機に、本校では原子力発電所廃止措置分野や原子力及び原子力規制分野で活躍可能な高専生の人材育成を進めております。本取組は省庁や国内外の産業界、教育・研究機関等と連携をし、より多くの優秀な学生を原子力産業へ導くことを目的としています。

1. 原子力関係講義

廃炉や放射線、原子力に関する知識を深めるため1～5年生の各学年において科目を開設しています。受講は学科を問わず可能で、廃炉工学については単位互換協定のある全国の高専生が聴講可能です。

科目名	学年	形式
原子力発電基礎	1年	集中講義
放射線基礎	2年	e-learning
環境科学基礎	2年	
廃炉ロボット概論	3年	e-learning
廃炉工学	4年	e-learning
環境工学	4年	

2. 廃炉創造ロボコン

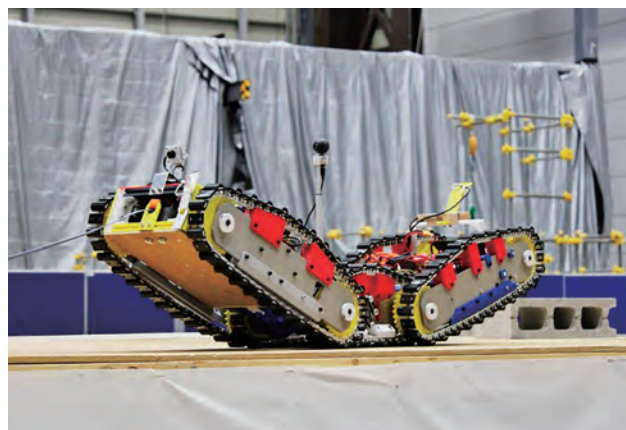
本大会は長期に及ぶ東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業を想定して、どんなロボットが必要かを思い描き、課題と解決策を考え、それらを反映させたロボットを高専生が製作します。ロボット製作を通じて、今後活躍を期待される世代の学生に廃炉に関する興味を持ってもらうと同時に、学生の創造性・課題解決能力・課題発見能力を養うことを目的としております。

【R7年度参加校】

国内10高専（16チーム）

海外マレーシア工科大学（1チーム）

KOSEN-KMITL（タイ高専）（1チーム）



第10回廃炉創造ロボコン 競技の様子

3. 研修、施設見学

原子力規制の現場を正しく理解すること、また講義内容の現実を知り、現場の状況を正しく理解すること等を目的に国内外で研修、施設見学を実施しています。

【主な研修先】 福島第一、第二原子力規制事務所
原子力規制庁本庁、原子力安全研修所
日本原子力研究開発機構
原子力機構幌延深地層研究センター
東京電力
英国セラフィールド社



英国セラフィールド研修

4. 国際機関、海外大学との連携

国際機関や海外の大学（イギリス・シェフィールド大学、マンチェスター大学、アメリカ・マサチューセッツ工科大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン）との組織的連携により、学生の国際研鑽の機会を設けています。

高等専門学校等スタートアップ教育環境整備事業

2023年度から全国の高専生が、自由な発想で活動にチャレンジできる環境を整備する戦略的な取り組みである文部科学省「高専スタートアップ教育環境整備事業」が開始されました。福島高専では、この事業を通じて、試作スペース「磐陽テックガレージ」の開設、「アントレプレナーシップ」を学ぶ授業を開講しました。「磐陽テックガレージ」は、授業で学んだ知識をモノづくりに活かす場となり、学生のスキルの向上にとどまらず、知的好奇心や創造力を養う場となっています。また、学内外のコンテスト出場に向けたアイデアの創出と磐陽テックガレージでの試作品製作が行える環境が整備されたことで、学生の興味・関心をカタチにし、発表する機会の創出が拡大しました。福島高専は、「スタートアップ教育環境整備事業」を通じて、地域社会の発展に貢献する人材育成を行うとともに豊かな教養と人間力、科学技術の基礎素養・実践力・創造性の育成をさらにすすめてまいります。

1. アントレプレナーシップ入門・実践

福島高専では、「高専スタートアップ教育環境整備事業」で掲げられた「技術力を生かしたビジネスチャンス、起業マインドの醸成」を目指し、1年生対象「アントレプレナーシップ入門」および4年生対象「アントレプレナーシップ実践」を開講しています。

【授業の特色】

アントレプレナーシップ関連の2科目は、全学科対象であり、5学科の学生が専門分野の枠を超えて、学び合います。授業には、アクティブラーニングを取り入れ、学生の自由なアイデアを発展させる授業を行っています。また、起業家による講演、ビジネス関連の知識の習得などを行い、起業を含めたキャリアを考える場を提供しています。

【授業の目的】

学術的なアントレプレナーシップを学ぶことにくわえ、予測困難な時代といわれる現代社会で生き抜くために必要な能力を身に付けることを目的としています。具体的には、発信力、働きかけ力、柔軟性、課題発見・解決力、計画力、状況把握力等の社会人基礎力の醸成を目指しています。



2. 磐陽テックガレージ

磐陽テックガレージは、学生の自由な発想で気軽にチャレンジできる試作の場であり、授業、課外活動等で学科・学年を問わず、全学生が主体的に創作活動を行える場として活用されています。地域を舞台にした活動を通じて学生が自身の技術やアイデアで課題を解決するイノベーションを推進する「モノづくり」と、知識を実践し新しい価値やユーザー体験を生み出す「コトづくり」の両輪で次世代人材の育成と地域貢献を目指しています。

工房スペースには、3Dプリンタ、UVプリンタ、レーザー加工機、モデリングマシン、CNCフライス盤などの工作機器、オシロスコープ、ファンクションジェネレータ、マルチメーターなどの電気計器、マシンや工具類など多彩な設備が整っています。

スタジオスペースには、撮影機器や音声収録機器、クロマキー合成設備、動画編集機器、空間再現ディスプレイ、モーションキャプチャ、VRゴーグルを備えています。



3. インキュベーションルーム

インキュベーションとは、英語で「孵化（ふか）」を意味し、起業や事業の成長を支援する活動を指します。福島高専では、学生の成長や創造的な「モノづくり」を支援するために学内に「インキュベーションルーム」を整備しました。

福島高専のインキュベーションルームは、木材をふんだんに使用し、教室や実験室とは異なるデザイン性の高いクリエイティブな空間となっています。室内には、対話を促す大型テーブルや最新のIT設備、プライバシーに配慮した防音個室を完備し、グループから個人までの幅広い用途に対応しています。また、起業やモノづくりの専門書、創造性を高めるゲームやアイデア創出ツールなどが自由に利用できます。福島高専のインキュベーションルームは、学生が集い、チャレンジし、共に学ぶ協創の場となっています。



国際化・SDGs推進センター

国際化・SDGs推進センターは、海外の大学等との学術交流、留学生の受入れ、本校学生の海外インターンシップ等の海外派遣等、学生及び教職員の国際交流活動を積極的に推進しています。

また、本校の教育目標である「持続可能な社会の発展」に貢献できる人材育成のため、国際的に持続可能な開発のための目標であるSDGsを学内に浸透させること、国内外のSDGs関連団体との連携を進めること等、学生及び教職員のSDGs推進にかかわる様々な活動を支援します。

1. 国際化の推進

■ 留学生の受入れ

本校では、3年次に編入学する長期留学生及び3か月以内の短期留学生を受入れしています。長期留学生は、授業に出席し、準学士の資格を取得して3年後に卒業します。短期留学生は、指導教員のもとで研究活動を行います。留学生には学生チューターを配し、日本の生活や文化に親しむ機会を提供しています。



日本語スピーチコンテストに参加した学生

● 留学生の受入れ（在籍状況）

国費留学生（例年1、2名の受入れ）、マレーシア政府派遣留学生（例年1、2名の受入れ）短期留学生（フランス、フィンランドより例年5名程度の受入れ）

■ 学生の海外への送り出し

本校では、3年生対象の地元企業の海外拠点へのインターンシップと、専攻科対象の協定校へのインターンシップがあります。どちらも、単位認定を受けることができます。本校の協定校への派遣プログラムや、高専機構本部や他高専からの派遣プログラムを学内に周知し、学生の留学機会の提供を行っています。

● 学生の海外派遣

佐藤辰彦基金及び奈良宏一基金による海外インターンシップ、フランス・リール地区等IUTとの学生相互派遣、フィンランド トルク応用科学大学との学生相互派遣、大連短期留学プログラム、廃炉創造学修プログラム、日本一タイ高校生サイエンスフェア、シリコンバレースタディーツアー、チェンマイ大学付属語学学校英語・タイ文化体験研修、マレーシア英語研修、台湾研修、フランスIUT Le Havre International Day

■ 海外との学術交流校

本校では、海外の大学等と学術交流協定を結び、学生派遣及び受入れを主な事業とし、招聘教員による特別講義の実施、国際学会や交流事業を開催しています。また、協定校からの募集等を学内に周知しております。

● 海外の学術交流校

ブラジル：サンパウロ大学（サンカルロス校工学部）、メキシコ：グアナファト大学、フランス：ルアーブル大学ルアーブル技術短期大学、カナダ：バンクーバーアイランド大学付属高校、中国：大連東軟信息学院、陝西工業職業技術学院、ポルトガル：ポルト工科大学ポルトテクニク、タイ：チェンマイ大学、タイ高専 KMUTT（キングモンクット工科大学トンプリ校）、マレーシア：サバ大学、他高専とのコンソーシアムとして、フランス：IUT、フィンランド：HMUAS、TUAS

2. 地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）

本校はサステナブルスクールとして活動を開始したことを契機に、その成果を地域へ還元するため、特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）が公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）と共同で運営する「ESD活動支援センター」が設置する地域ESD活動推進拠点として登録しています。ESDの普及に向け、自治体と連携しながらSDGs教材を使用した出前授業などに取り組んでいます。



3. SDGs Webinarの開催

SDGs Webinarでは、持続可能な地域社会づくりに貢献できるような未来のエンジニアを育てることを目的としています。学生自身が困難な状況に置かれた場合に「自分で創っていこう！」そう思える人材を育成することを目指す取組です。Webinarで地域単位の問題発見・課題提起を行い、高専生の特徴の一つである実践力を生かし、アントレプレナーシップを育て、国連の掲げるSDGs17と起業プランの紐づけを学びます。



SDGs Webinar 2025

SDGs Webinar 2025は、2025年8～12月の指定土曜日、オンラインでワークショップ及び発表会の計6日開催されました。本Webinarでは、米国シリコンバレーで活躍する日本人講師よりSDGsやアントレプレナーシップの講義、長岡/豊橋技科大の教授よりSDGs17についての講義を受けました。

その後、SDGs17をフレームワークとして、地域に共通した問題を見つけ、学んだ講義を基にビジネスモデルの作成・発表をしました。

参加学生が自身のアントレプレナーシップ（起業家精神）を育て、実践力を生かし、多様な課題の解決に挑戦する意識を持つ技術者となるよう、SDGsWebinarは今後も福島高専のオリジナルWebinarとして継続していきます。



サステナブルイノベーションセンター (SIセンター)

本センターは、地域の復興支援及び令和5年4月に設立された福島国際研究教育機構 (F-REI) との連携・支援を目的に、学内組織である地域復興支援室の機能を高度化する形で令和4年10月に設置されました。本校は令和5年4月1日にF-REIとの連携協力に関する協定を締結しており、本センターを連携拠点として双方の資源を有効的に活用した協働活動を推進し、人材育成・研究推進の充実が図られるよう活動していくこととしています。継続的に福島県浜通り地域の復興及び発展、福島や東北の創造的復興に貢献できるよう努めてまいります。

【F-REIとの連携事業 (予定)】

- 理事長等によるトップセミナー
- 公開講座・出前講座の実施等
- 共同研究・研究者交流



カーボンニュートラル社会連携共同講座

1. 概要

政府及び福島県は2050年に向けてカーボンニュートラルの実現を目指すことを宣言しており、カーボンニュートラルに関する知識を身に付けた技術者の育成が重要な課題となっています。本校では、2022年度から地元企業23社から成る「いわきCN人材育成コンソーシアム」と共同で「いわきカーボンニュートラル社会連携共同講座」を開講しています。カーボンニュートラルに関する人材育成、技術交流、連携推進、共同研究・開発、海外大学との交流推進を通して、新産業創出やカーボンニュートラル社会の実現に結びつくよう地元企業と連携して取り組んでいきます。

2. 2025年度実施プログラム

共同講座

本校専攻科1年生、地元企業従業員およびいわき市民を受講対象者として、全13回の共同講座を開催しました。

【講義テーマ】

国、県、市のエネルギー・カーボンニュートラル政策/蓄電池/エネルギーシステム/Jクレジット

公開シンポジウム

本事業の総括として、本校学生、地元企業の従業員、一般市民を対象とした公開シンポジウムを開催しました。

【プログラム】

基調講演：

「CN実現に向けて～いわきから日本、そして世界への挑戦～」

講師：環境省大臣官房審議官 西村治彦 氏

成果発表 (講座受講生による発表)



情報処理教育センター

情報処理に関する教育・研究を支援する学内共同施設です。各演習室には学生の学習・研究用としてWindows11を搭載したパーソナルコンピュータを計100台以上設置しています。また、学内LANの中枢として各種サーバやネットワーク機器を管理し、高速イーサネット網SINETへ1 Gbpsで接続することで、国内外との高速な情報通信を常時実現しています。各演習室は、放課後には学生に開放され課題等の実施にも活用されています。さらに毎年、中学生プログラミングコンテストをはじめとした公開講座も実施しています。



講義演習室

地域環境テクノセンター

本センターは、それまでの環境科学教育研究センターと地域交流センターの両機能を合わせ、かつ効率よく新しい展開をはかることをめざして、平成18年に開設されました。本校が培った研究・教育の成果や試験・分析・教育技術等を地域の産業や文化の発展に積極的に貢献することを目的として設置された産学官民の連携を推進するための支援機関です。また環境科学に関する知識、技術の教育及び研究を行っており、地域社会の産業の発展と住民の生活環境の向上に貢献します。運営は、専門5学科、一般教科及び専攻科等から選出された教職員で構成される委員会によって行われ、4つの部門（管理運営、リエゾン、技術支援、教育支援）にわかれて活動しております。

研究・開発支援、試験・分析サービス、技術相談、講演会の開催や研究会の実施、技術・教育シーズ集の公開、公開講座・実習、出前授業等幅広く取組んで、地域の企業や小中学校に対する支援を行っています。



モノづくり教育研究支援センター

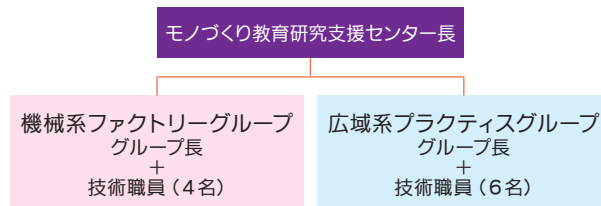
モノづくり教育研究支援センターは、下図のようにセンター長（教員）以下、2部門からなり、常勤の専門的な技術職員12名を擁する組織です。

センターの目的は、高専での各種ニーズに対する技術・技能支援、学生の実験・実習への支援、教職員の研究支援です。

また、上記支援の活動場として実習工場、モノづくり演習室等の施設のほか、各種工作機械の管理・運用も行います。

さらに地域環境テクノセンターと連携して地元企業からの技術相談、NPO法人など地元組織への支援、公開講座および出前授業などの地域連携活動も行っています。

●組織図



学生保健センター

本センターは、学生の就学を心身両面から支え、健康の維持・増進を図ることを目的として設置された学内施設です。「保健室」「学生相談室」「多目的学生支援室」から構成され、教員、学校医、カウンセラー、看護師が連携して運営しています。日常の健康管理や応急対応に加え、心理的な悩みや対人関係、学業上の不安等に対する相談支援を行っています。また、定期健康診断や保健指導等を通じて疾病の予防や早期発見に努めるとともに、学生一人ひとりの状況に応じて関係教職員と連携し、安心して学生生活を送ることができるよう支援しています。



学生相談室



多目的学生支援室



保健室前の廊下

学生学習支援センター

学生学習支援センターは、主に低学年の学生を対象に数学、物理、化学などの理系基礎科目の学習支援と実験・実習科目の提出物作成の支援を目的として令和元年に設置されました。これらの科目は各学科で専門的な内容を理解し、研究を推し進めるうえで習得が必須とされますが、近年、つまりく学生が多くなっているのが現状です。そこで、工学系学科1年生を対象に放課後に課題学習時間を設けて、課題の作成や試験の対策などの支援を行っています。この支援では、高学年生のティーチング・アシスタントを採用し、クラス内の横のつながりだけでなく、学科の先輩・後輩の縦のつながりの中で共に勉学に励む環境づくりも意識しています。これらの支援がスムーズに基礎科目を習得するうえでの一助となることを期待しております。



TAとの学習の様子

図書館

図書館は、学校全体の学習センターとしての役割を果たしています。ここには、教育及び研究に必要な情報の資料や参考図書を中心に、豊かな情操を養うための教養書、進路関係図書・資格関係図書などが開架式書架に並べられています（上写真）。また、学術専門誌、一般及び自然科学雑誌、電子ジャーナル（4種）、電子書籍、新聞も閲覧できるようになっています。電子書籍は約700冊の蔵書があり、学生と教職員は、学内に限らずどこからでもアクセス可能です。本館は、一般の方にも開放しています。



館内には、多目的学習スペースやサイレントスタディールームなど、学習スペースも充実しております（下写真）。



〈開館時間〉

平日（月～金） 8:00～18:45

土曜日 9:00～16:00

〈休館日〉 日曜日、国民の祝日、年末年始等

●蔵書

令和8年4月1日現在

分類	図書(冊)	
	和書	洋書
総記	7,617	137
哲学	3,983	143
歴史	3,792	43
社会科学	6,776	225
自然科学	13,187	2,889
工学	22,072	1,057
産業	967	6
芸術	2,552	76
語学	4,403	3,652
文学	8,426	667
小計	73,775	8,895
合計	82,670	

福利厚生施設 「磐陽会館」

学生・教職員のための福利厚生施設、磐陽会館には、食堂・売店・学生保健センター・男女共同参画支援室等があります。

昼休みや放課後は、ここでくつろぐ多くの学生たちでにぎわっています。



男女共同参画・キャリア教育支援室



磐陽会館



売店



食堂

学寮「磐陽寮」

本校の学寮は磐陽寮と称され、独立した6棟（若葉棟・青葉棟・暁棟・白雲棟（改修中）・曙棟（国際寮）・こずえ棟）からなっています。

寮では起床から就寝まで、日課に従っての生活及び寮生会活動等を通して

- 規律ある生活
- 学力の育成
- 相互理解と親和
- 個性の尊重

を体得するよう指導しています。



若葉寮（女子寮）

1. 定員

男子178名（改修後 190名）、女子109名

2. 施設・設備

● 学生居室

原則として男子低学年は、2名1室、男子高学年は1名1室で入居しています。（女子は1名1室）

机・椅子・本箱・ベッド・衣類ロッカー（男子のみ）

シューズラックは貸与

各居室に冷暖房完備・LAN設置

● 共同施設

食堂1ヵ所（給食は業者委託）

浴室（男子用）・浴室（女子用）

各棟に、談話室・自習室・洗濯室等設置

● その他の施設

事務室



曙寮（国際寮）



曙寮居室

3. 入寮者数

令和8年4月1日現在

学科	学年	1年	2年	3年	4年	5年	合計
機械システム工学科		8 (2)	9 (3)	14 (3)①△	10 (3)△	7 ①	48 (11)②△
電気電子システム工学科		12	8 (3)	9 ①	7 (2)①	9 (1)①	45 (6)③
化学・バイオ工学科		3 (1)	11 (8)	11 (5)△	6 (3)△	7 (4)△	38 (21)△
都市システム工学科		6 (1)	6 (1)	6 (3)	6 (3)①	3 (1)①	27 (9)②
ビジネスコミュニケーション学科		10 (8)	8 (7)	10 (9)	4 (3)	5 (2)	37 (29)
合計		39 (12)	42 (22)	50 (20)	33 (14)	31 (8)	195 (76)⑦△

()内は女子内数 ○内は留学生男子内数 △内は留学生女子内数

学生数

●学生定員及び現員

学 科	入学定員	現 員					合計
		1年	2年	3年	4年	5年	
機械システム工学科	40	42 (35,7)	41 (34,7)	44 (40,4)	37 (31,6)	34 (32,2)	198 (172,26)
電気電子システム工学科	40	42 (39,3)	40 (32,8)	44 (41,3)	32 (28,4)	35 (32,3)	193 (172,21)
化学・バイオ工学科	40	43 (21,22)	41 (21,20)	40 (18,22)	43 (18,25)	41 (18,23)	208 (96,112)
都市システム工学科	40	43 (28,15)	40 (22,18)	42 (24,18)	45 (28,17)	35 (29,6)	205 (131,74)
ビジネスコミュニケーション学科	40	43 (12,31)	42 (14,28)	42 (14,28)	35 (17,18)	32 (8,24)	194 (65,129)
合計	200	213 (135,78)	204 (123,81)	212 (137,75)	192 (122,70)	177 (119,58)	998 (636,362)

専 攻 科	入学定員	現 員		合計
		1年	2年	
産業技術システム工学専攻	16	17 (9,8)	16 (10,6)	33 (19,14)
ビジネスコミュニケーション学専攻	4	4 (1,3)	4 (1,3)	8 (2,6)
合計	20	21 (10,11)	20 (11,9)	41 (21,20)

研究生	1 (1,0)
-----	------------

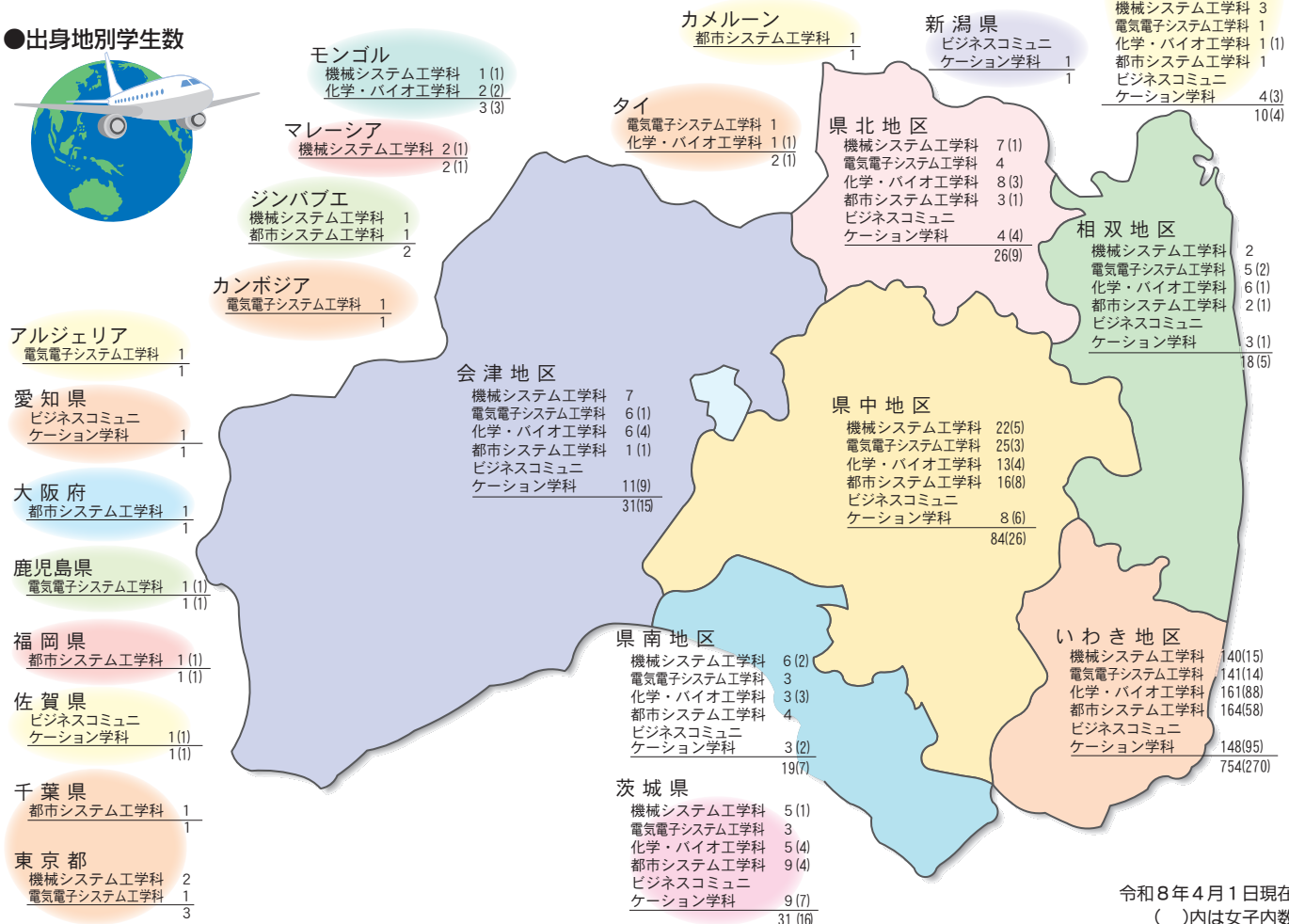
合計在学者数	1,040 (659,381)
--------	--------------------

令和8年4月1日現在 (,)内は(男子,女子)数



青森県	ビジネスコミュニ ケーション学科	1(1) 1(1)
山形県	化学・バイオ工学科	2(1) 2(1)
宮城県	機械システム工学科 電気電子システム工学科 化学・バイオ工学科 都市システム工学科 ビジネスコミュニ ケーション学科	3 1 1(1) 1 4(3) 10(4)

●出身地別学生数



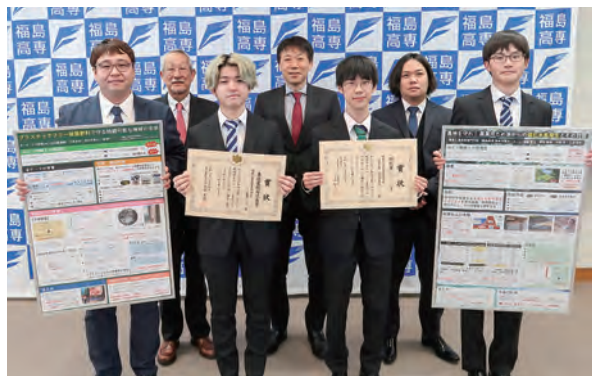
令和8年4月1日現在 ()内は女子内数

●入学志願者状況

学 科		工 機 学 械 科 シ ス テ ム	電 シ 気 ス 電 シ 子 テ ム 工 学 科	工 化 学 学 科 ・ バ イ オ	工 都 学 市 科 シ ス テ ム	学 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ス	合 計
入学定員		40	40	40	40	40	200
令和4年度	志願者数	39	47	46	34	47	213
	志願者倍率	1.0	1.2	1.2	0.9	1.2	1.1
令和5年度	志願者数	46	38	61	53	47	245
	志願者倍率	1.2	1.0	1.5	1.3	1.2	1.2
令和6年度	志願者数	50	53	42	51	60	256
	志願者倍率	1.3	1.3	1.1	1.3	1.5	1.3
令和7年度	志願者数	55	54	55	46	62	272
	志願者倍率	1.4	1.4	1.4	1.2	1.6	1.4
令和8年度	志願者数	48	59	51	47	60	265
	志願者倍率	1.2	1.5	1.3	1.2	1.5	1.3



電気学会リニアドライブ技術委員会奨励賞を受賞



みどり戦略学生チャレンジ東北ブロック大会で「東北農政局次長賞」及び「特別賞」を受賞



高専ロボコン2025東北地区大会



第22回全国校長専門学校デザインコンペティション



磐越東線利活用サミットで最優秀賞を受賞

●卒業生の進路（令和8年3月卒業生）

（ ）内は女子内数

区 分	機械システム工学科	電気電子システム工学科	化学・バイオ工学科	都市システム工学科	ビジネスコミュニケーション学科	合 計
卒業生数	35 (1)	34 (5)	39 (22)	41 (11)	40 (30)	189 (69)
進学者数	18	12 (1)	16 (8)	20 (3)	23 (19)	89 (31)
就職者数	17 (1)	22 (4)	20 (12)	21 (8)	15 (11)	95 (36)
その他	0	0	3 (2)	0	2	5 (2)

●就職者の産業別分野

産業別分野	機械システム工学科	電気電子システム工学科	化学・バイオ工学科	都市システム工学科	ビジネスコミュニケーション学科	合 計
建設業	0	1	0	9 (3)	3 (1)	13 (4)
製造業	食品・飲料・タバコ・飼料	0	0	2 (1)	0	2 (1)
	化学工業・石油・石炭製品	0	1	15 (10)	0	16 (10)
	印刷・同関連業	3	0	0	0	3
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	0	1	1	0	2
	電子部品・デバイス・電子回路	1	6 (2)	0	0	7 (2)
	電機・情報通信機械器具	5 (1)	2 (1)	0	0	8 (3)
	輸送用機械器具	1	2	0	0	3
	はん用・生産・業務用機械器具	0	0	1	0	2 (1)
	その他	3	0	1 (1)	0	2 (2)
電気・ガス・熱供給・水道業	3	3	0	10 (4)	1 (1)	17 (5)
情報通信業	1	5 (1)	0	0	3 (3)	9 (4)
その他専門・技術サービス業	0	0	0	0	2 (2)	2 (2)
地方公務	0	0	0	1 (1)	0	1 (1)
運輸業・郵便業	0	1	0	1	1	3
小売業	0	0	0	0	1	1

●大学等編入学状況（国公立）

（ ）内は女子内数

大学名	卒業年度	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
小樽商科大学				1		
北海道大学					1	1
室蘭工業大学				1		2
北見工業大学			1 (1)			
弘前大学	1					
岩手大学			1 (1)			
東北大学	3	1	1	1	1	2
秋田大学	1	1				
山形大学	2	3 (2)	3 (3)			
福島大学	1	7 (1)	4 (2)	2 (1)	2 (1)	2 (1)
会津大学						1
茨城大学	4 (2)	6 (1)	4	4 (1)	6 (1)	6 (1)
宇都宮大学	1	4 (2)	4 (1)	6 (2)	4	4
群馬大学		1	2	1 (1)		
埼玉大学				1		
千葉大学	3	3	2 (1)	2	1	1
横浜国立大学	1	1	3	2	1	1
山梨大学				1		
信州大学		1	1			1
新潟大学	4 (1)	1 (1)	2 (1)	1	4 (2)	4 (2)
筑波大学	5 (2)	5 (3)	2	4 (3)	4 (3)	4 (3)
長岡技術科学大学	11 (2)	20 (4)	7 (1)	14 (1)	12 (2)	12 (2)
お茶の水女子大学	2 (2)		2 (2)			
電気通信大学	1	1	3 (2)			
東京工業大学	1					
東京農工大学	2 (1)	4 (1)	2 (1)	1	3 (2)	3 (2)
東京海洋大学				1 (1)		
東京科学大学						1
福井大学		2	1	1	1	1
富山大学						1 (1)
岐阜大学	1	1	1	1 (1)	1 (1)	1 (1)
金沢大学				1		1 (1)
静岡大学		1 (1)	2			
名古屋大学				1 (1)		
三重大学			2 (1)			
豊橋技術科学大学	3	4 (1)	2	8 (2)	8	8
大阪大学				1 (1)		
滋賀大学		1	2 (1)			
神戸大学	2 (2)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	3 (3)	3 (3)
奈良女子大学				1 (1)		
岡山大学					1 (1)	
島根大学		1	1			
広島大学	1	2 (2)	1	1	2 (1)	2 (1)
山口大学		1				
高知大学	1 (1)		1			2
香川大学					1	
九州大学	2 (1)	1	1	1 (1)	1	1
九州工業大学				1		
熊本大学				1		
琉球大学	1					
長野大学			1 (1)			1 (1)
東京都立大学	2	2	1 (1)	1 (1)		
高崎経済大学						1 (1)
東北芸術工科大学	1 (1)			1	1 (1)	1 (1)
東京理科大学			1	4		
千葉工業大学	1	1 (1)	1			1
日本大学			3			
近畿大学				1		
大阪商業大学				1		
大阪芸術大学				1		
鎌倉女子大学		1 (1)				
埼玉工業大学		1				
駒澤大学		2 (1)				
中央大学	1					2 (2)
跡見学園女子大学						1 (1)
東海大学		1 (1)				
東京都市大学	2 (1)		1	1 (1)		
明治学院大学			1			
創価大学		1 (1)				
東京国際工科大学		1				
医療創生大学					1	
専攻科						
福島高専専攻科		26 (10)	20 (8)	23 (10)	20 (9)	21 (11)
計		87 (26)	108 (36)	91 (30)	92 (29)	89 (31)

●専攻科修了生の進路（令和8年3月修了）

（ ）内は女子内数

区 分	産業技術システム工学専攻	ビジネスコミュニケーション学専攻	計
修了者数	18 (6)	5 (4)	23 (10)
進学者数	2	0	2
就職者数	16 (6)	5 (4)	21 (10)
未定者	0	0	0

●就職者の産業別分野

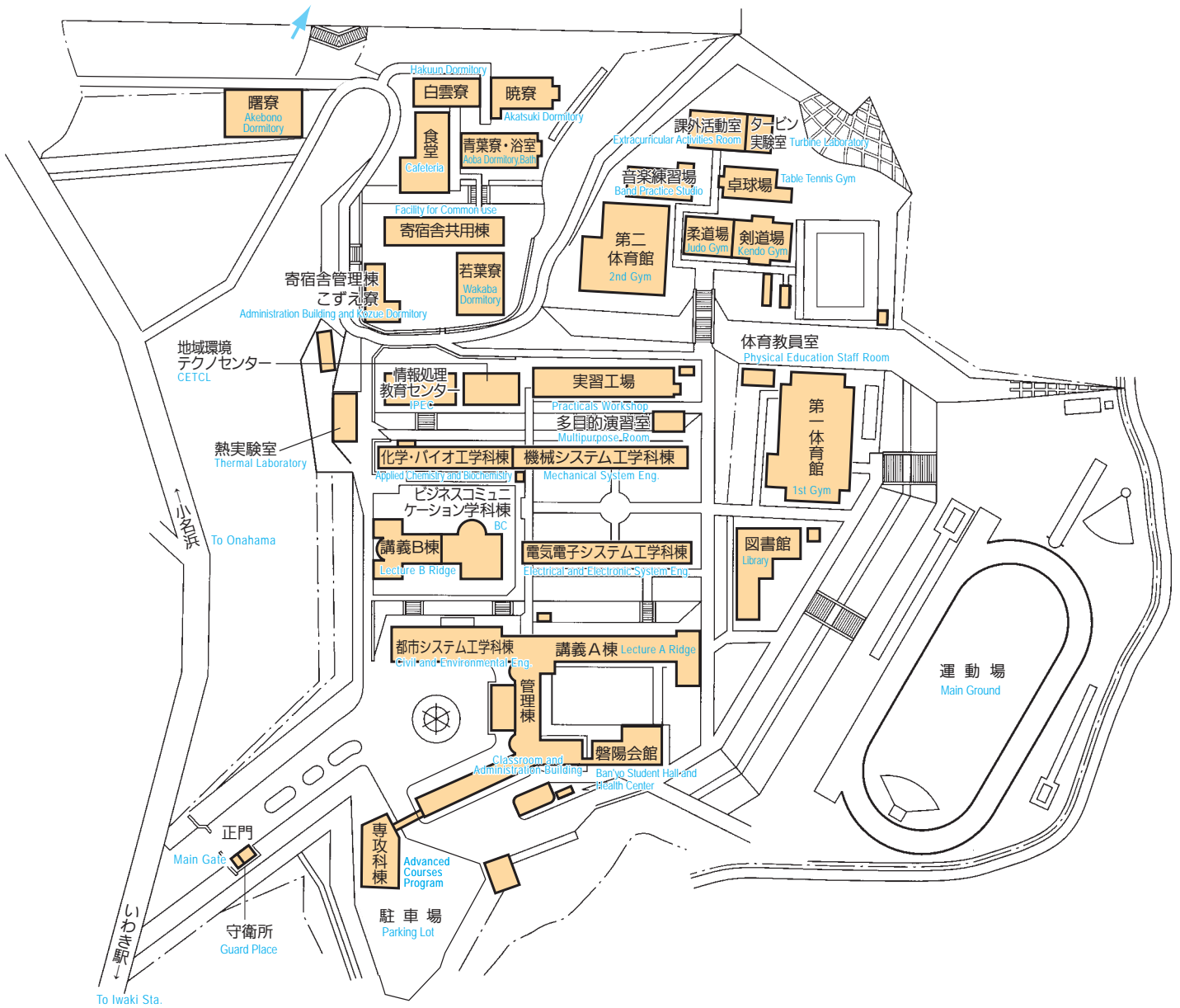
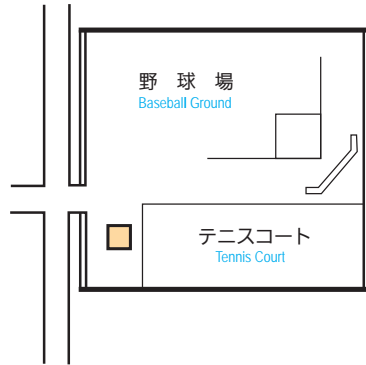
産業別分野		産業技術システム工学専攻	ビジネスコミュニケーション学専攻	計
建設業		3 (2)		3 (2)
製造業	食品・飲料・タバコ・飼料	1		1
	化学工業・石油・石炭製品	3 (1)		3 (1)
	印刷・同関連業	1 (1)		1 (1)
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品			0
	電子部品・デバイス・電子回路			0
	輸送用機械器具	3		3
	電機・情報通信機械器具			0
	その他	1 (1)		1 (1)
電気・ガス・熱供給・水道業		1		1
情報通信業			1 (1)	1 (1)
不動産取引・賃貸・管理業		1		1
複合サービス業			1 (1)	1 (1)
その他専門・技術サービス業		1	1 (1)	2 (1)
運輸業・郵便業				0
地方公務		1 (1)	2 (1)	3 (2)

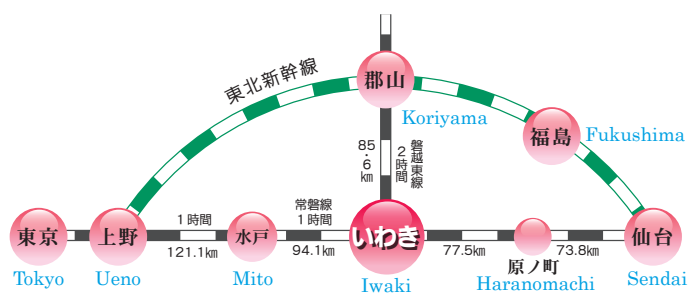
●進学状況

（ ）内は女子内数

大学院・大学	修了年度	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025	計
	東北大学大学院	3 (1)		2			
福島大学大学院	1 (1)						1 (1)
茨城大学大学院			1				1
宇都宮大学大学院	1 (1)						1 (1)
横浜国立大学大学院	1 (1)						1 (1)
新潟大学大学院	3 (1)						3 (1)
筑波大学大学院			1		1 (1)		2 (1)
東京科学大学大学院						1	1
北陸先端科学技術大学院大学	1					1	2
京都大学大学院	1						1
京都工芸繊維大学大学院			1				1
慶應義塾大学大学院	1						1
計		12 (5)	3	2	1 (1)	2	20 (6)

■ 建物配置図 Campus Map





- 【JRの場合】最寄りの駅はJR常磐線いわき駅です
- ※東京駅から特急ひたちで約2時間25分
 - ※郡山駅から磐越東線で約2時間
 - ※仙台駅から特急ひたちで約2時間10分
 - ※JR常磐線いわき駅からタクシーで約5分
 - ※JR常磐線いわき駅前から新常磐交通バスで約10分
- (⑥番のりば鹿島經由小名浜行き又は医療創生大經由ラパークいわき行きで高専前で下車)
- 【自動車の場合】高速道路利用
- ※常磐自動車道、磐越自動車道ともいわき中央I.C.から車で約15分

福島工業高等専門学校要覧

2026年6月発行

編集発行 福島工業高等専門学校

〒970-8034福島県いわき市上荒川字長尾30

TEL. 0246-46-0700(代表) FAX. 0246-46-0713(総務課)

URL <https://www.fukushima-nct.ac.jp>

